

史跡高遠城跡試掘(遺構確認)調査

史跡 高遠城跡二ノ丸・南曲輪

埋蔵文化財発掘調査報告書

2006.3

長野県上伊那郡高遠町教育委員会

史跡高遠城跡試掘(遺構確認)調査

史跡 高遠城跡二ノ丸・南曲輪

埋蔵文化財発掘調査報告書

2006.3

長野県上伊那郡高遠町教育委員会



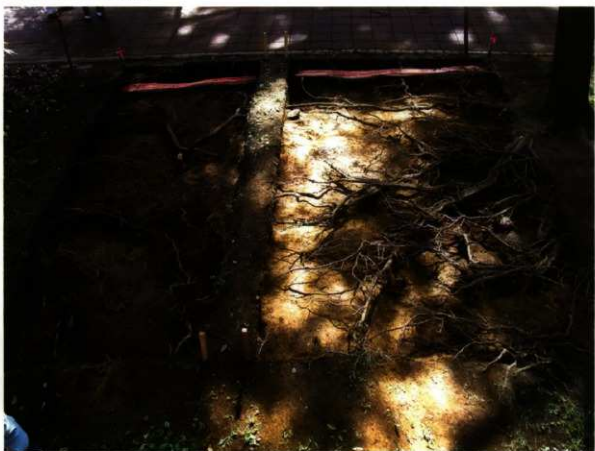
1 1-6区石垣背面の集石(上が北側・堀)



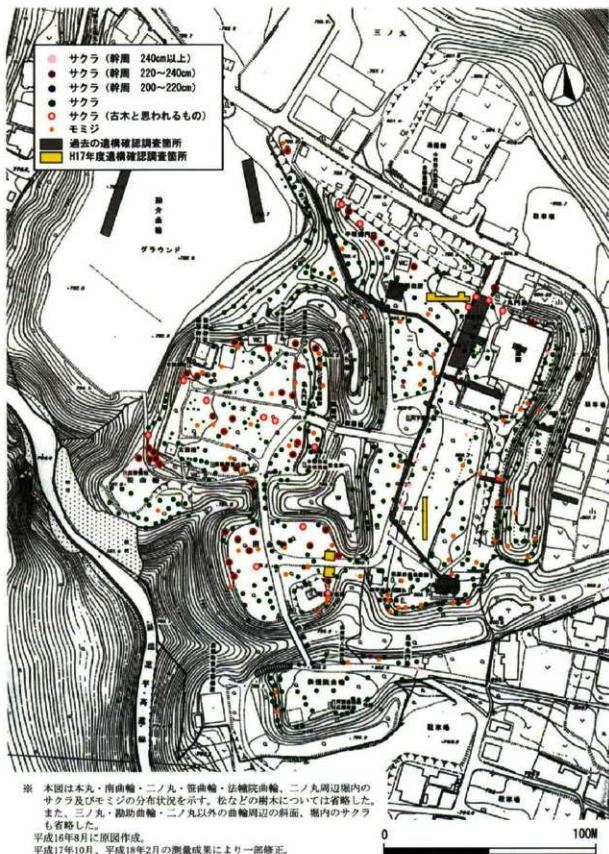
2 1-6区西壁土層断面



3 2-2区出土土管の状況



4 第3トレンチ桜の根の状況(北から)



第1図 高遠城跡内コヒガンザクラ等植物分布図



発刊にあたって

この報告書は史跡高遠城跡の整備に向けた遺構確認調査と、城内に植生する桜と史跡の共存を目指して、桜の根が埋蔵遺構に与える影響について調べることを目的に実施した試掘調査の結果を収録したものです。平成16年度に策定した「史跡高遠城跡整備実施計画」に基づき、平成17年度の調査は二ノ丸内の2箇所と南曲輪の2箇所で行いました。

調査の結果、明らかになった事柄の一部を挙げてみますと、二ノ丸では枳形の石垣あるいは土塁・塀の基礎となる石垣の根石の一部ではないかと推定されるものがいくつか発見されました。南曲輪の枳形があったと思われる辺りには電線、水道管等が埋められており、遺跡の遺構面は過去に破壊されている形跡が窺われましたが、入口の門の礎石ではないかと思われるものが発見されています。しかし、対をなす礎石がなかったため確定ができず、今後の調査が待たれます。また、今回実施した調査を通して、二ノ丸や南曲輪での桜の根の深さや広がりや遺構面の関係を確認することができ、遺構を壊さないで、桜の立ち枯れを防ぐ方策を検討する上での資料を得ることができました。

この調査は丸山敏一郎氏を団長に平成17年10月より11月までの間、現場での発掘作業を実施しました。天候に関わらず、常に調査の先頭に立ち指揮を取られ調査を進めていただきました丸山団長に心から感謝申し上げますとともに、熱心に調査にあってくださいました作業員の方々のご努力に、合わせて感謝申し上げます。発掘によって得られた遺物の整理と報告書の作成にあたりご指導を賜りました長野県埋蔵文化財センターの先生方や前林政行氏、調査全般にわたりご指導をいただきました文化庁文化財部記念物課、長野県教育委員会の先生方にこの場を借りてお礼を申し上げます。

今回の調査により出土した遺構・遺物等について、さらなる検討が必要なことは言うまでもありませんが、この報告書が今後の高遠城跡の保存、管理、整備、活用の推進に役立ち、ひいては教育文化の向上の為に活用されることを願いながら発刊の言葉と致します。

平成18年3月

高遠町教育委員会

教育長 中原 長 昭

例 言

- 1 本報告書は、平成17年度に実施した史跡高遠城跡試掘(遺構確認)調査の報告書である。
- 2 この調査は史跡高遠城跡(長野県上伊那郡高遠町大字東高遠2038-1番地ほか)の整備に向けて遺構の状況を確認すること、及び高遠城跡では桜と史跡の共存を掲げており、桜の根が遺構に与える影響と桜の立ち枯れについて今後の対策を検討することを目的に高遠町教育委員会が実施したものである。
- 3 発掘調査は平成17年10月3日から11月16日まで現場での作業を実施し、平成17年11月28日より平成18年3月30日まで遺物等の整理及び報告書の作成を行った。
- 4 本報告書の執筆者及び図版製作者は次のとおりである。
 - 本文執筆者・丸山 敏一郎・嶋田 佳寿子・伊藤 泰史
 - 図版製作者・丸山 敏一郎・嶋田 佳寿子・西村 清昭・水山 志津江・多田羅 弥和
 - 写真撮影・丸山 敏一郎・嶋田 佳寿子・伊藤 泰史
 - 遺物整理・丸山 敏一郎・嶋田 佳寿子・西村 清昭・水山 志津江・多田羅 弥和
 - 図版中、断面図(土層観察図)中の ●は桜の根を示す。Pはピットを示す。
- 5 本報告書の編集は高遠町教育委員会が行った。
- 6 遺物及び実測図面類は高遠町教育委員会が保管している。
- 7 発掘調査、報告書作成にあたって多数の方々のご指導、ご支援を受けた。特に下記の三氏には格別ご協力をいただいた。ともども感謝申し上げます。
河西 克造氏 (長野県埋蔵文化財センター調査研究員) 城跡一般
市川 隆之氏 (長野県埋蔵文化財センター調査研究員) 陶磁器類
前林 政行氏 (高遠焼研究者) 高遠焼

目 次

口 絵	①
発刊にあたって	⑤
例 言	⑥
目 次	⑦
第1章 発掘調査の経緯	1
第1節 発掘調査に至るまでの経緯	1
第2節 発掘調査の組織	1
第3節 発掘調査の経過(調査日誌から)	2
第2章 史跡高遠城跡の環境	3
第1節 高遠城跡の位置	3
第2節 高遠城跡の歴史的環境	5
第3章 長野県天然記念物高遠のコヒガンザクラ樹林の現況	6
第1節 高遠のコヒガンザクラ樹林の現況	6
第2節 史跡保護と天然記念物保護に係る経過	7
第4章 発掘調査の結果	8
第1節 発掘調査	8
第2節 高遠焼について	22
第5章 まとめにかえて	23
あとがき	59
平成17年度高遠城跡発掘調査出土遺物一覧	25
出土遺物実測図	36
写真図版	46

挿 図 目 次

第1図 高遠城跡内コヒガンザクラ等植物分布図	③	第13図 高遠関周辺土層断面図	23
第2図 高遠城跡の位置	4	第14図 第1トレンチ出土遺物1	36
第3図 平成17年度高遠城跡発掘調査地区	9	第15図 第1トレンチ出土遺物2	37
第4図 発掘調査地区(料理店撤去以前昭和60年頃の地図)	10	第16図 第1トレンチ出土遺物3	38
第5図 第1トレンチ位置図(撤去した茶店との位置関係)	11	第17図 第1トレンチ出土遺物4	39
第6図 第1トレンチ平面・断面実測図1(1-0~1-3)	12.13	第18図 第2トレンチ出土遺物1	40
第7図 第1トレンチ平面・断面実測図2(1-4~1-6)	14.15	第19図 第2トレンチ出土遺物2	41
第8図 第2トレンチ位置図(撤去した茶店との位置関係)	16	第20図 第2トレンチ出土遺物3	42
第9図 第2トレンチ平面・断面実測図1(2-1~2-3)	18.19	第21図 第2トレンチ出土遺物4	43
第10図 第2トレンチ平面・断面実測図2(2-4~2-5)	18.19	第22図 第3トレンチ出土遺物	43
第11図 第4トレンチ平面・断面実測図(4-1~4-2)	20.21	第23図 第4トレンチ出土遺物	44
第12図 第3トレンチ平面・断面実測図(3-1~3-2)	20.21	第24図 第2トレンチ出土土管(竈)	45

表 目 次

第1表 平成17年 史跡高遠城跡二ノ丸・南曲輪試掘(遺構確認)調査遺物一覧表	25
--	----

図 版 目 次

巻頭カラー図版

1. 1-6区石垣背面の集石(上が北側・堀)	①	3. 2-2区出土土管の状況	②
2. 1-6区西壁土層断面	①	4. 第3トレンチ板の根の状況(北から)	②

本文内 白黒図版

第3章 1. 若返りの処置をとっているサクラの様子	6	2. 本丸古木の現在の様子	6
第4章 3. 堀外から見る二ノ丸枡形の様子	11	5. 第3-4トレンチに埋設されていたゴミ	22
4. 第二次世界大戦直後の二ノ丸の様子	17		

巻末白黒図版

1. 第1トレンチ調査前	46	26. 2-5区石列と水道管の状況	50
2. 第1トレンチ調査前	46	27. 2-5区東壁土層断面と板の根、水道管の状況	50
3. 1-1区礎石、水道管理設跡の状況	46	28. 第3-4トレンチ調査前	50
4. 1-2区電気ケーブル埋設の状況	46	29. 第3-4トレンチ調査前	50
5. 1-3区水道管理設の状況	46	30. 第3トレンチの状況	50
6. 1-1区北壁土層断面	46	31. 3-1区板の根、電気ケーブルの状況	51
7. 1-2区北壁土層断面	47	32. 3-1区バックホーで掘った痕の状況	51
8. 1-0~1-2区礎石、水道管理設跡	47	33. 3-1区バックホーで掘った痕の状況	51
9. 1-0~1-2区礎石の状況	47	34. 3-2区板の根の状況	51
10. 水道管、板の根の状況	47	35. 3-2区礎石、電気ケーブル、水道管の状況	51
11. 1-5区水道管、板の根の状況	47	36. 第4トレンチの状況	51
12. 第1トレンチ全景	47	37. 4-1区東壁土層断面と板の根の状況	52
13. 1-6区石垣と裏込石の様子	48	38. 4-2区板の根の状況	52
14. 1-6区石垣の状況	48	39. 第4トレンチ板の根とバックホーによる攪乱の状況	52
15. 1-6区石垣の遠景	48	40. タガール実演の様子	52
16. 第2トレンチ調査前	48	41. 調査開始前 安全折戻の様子	52
17. 第2トレンチ調査前	48	42. 第1トレンチ埋め戻しの様子	52
18. 2-1区板の根の状況	48	43. 第3トレンチ埋め戻しの様子	53
19. 2-1区板の根の状況	49	44. 南曲輪埋め戻しの様子	53
20. 2-2区板の根、VP管の状況	49	45. 1-0区出土遺物	53
21. 2-2区遺物出土状況	49	46. 1-1区出土遺物1	53
22. 2-3区板の根の状況	49	47. 1-0区出土 鉢	53
23. 2-4区集石の状況	49	48. 1-1区出土遺物2	53
24. 2-4区土管、板の根の状況	49	49. 1-2区出土遺物	53
25. 2-5区土管、電気ケーブルの状況	50	50. 1-2区出土 軒平瓦	54

51. 1-3区出土遺物 1	54	66. 2-5区出土遺物 2	56
52. 1-3区出土遺物 2	54	67. 2-5区出土銭貨 寛永通宝	56
53. 1-3区出土 内耳土器	54	68. 2-5区出土銭貨 寛永通宝	56
54. 1-3区出土 天目茶碗	54	69. 3-2区出土遺物	56
55. 1-5区出土遺物	54	70. 4-1区出土遺物	56
56. 1-6区出土遺物	54	71. 4-2区出土遺物 1	57
57. 2-1区出土遺物	55	72. 4-2区出土遺物 2	57
58. 2-1区出土遺物 正面	55	73. 2-2区出土土管(種)	57
59. 2-2区出土遺物 1	55	74. 2-2区出土土管(種)	57
60. 2-2区出土遺物 2	55	75. 2-2区出土土管(種)	57
61. 2-2区出土 鉢	55	76. 2-2区出土土管(種)	57
62. 2-3区出土遺物	55	77. 高遠町立歴史博物館収蔵土管1	58
63. 2-4区出土遺物	55	78. 高遠町立歴史博物館収蔵土管2	58
64. 2-4区出土 越手茶碗	56	79. 2-2区出土土管 ソケット部断面	58
65. 2-5区出土遺物 1	56	80. 文化11年銘入土管 製作痕	58

第1章 発掘調査の経緯

第1節 発掘調査に至るまでの経緯

高遠城は、武田信玄築城の戦国時代の平山城であり、江戸時代には保科、鳥居・内藤氏などの居城として、明治の鹿城までおよそ350年間、南信州の一つの政治的文化的拠点であった。

鹿城後も城跡の北西部分(三ノ丸、勘助曲輪、大手)に改変がみられるものの、築城当時の縄張りの様相をよく留めている。

昭和48年5月26日『三峯川と藤沢川の合流点にある段丘先端部に築かれた平山城で極めて戦国的な城郭の構えをとどめている』として国の史跡に指定された。また、明治8年頃から植えられはじめたコヒガンザクラは、昭和35年2月11日、長野県天然記念物に指定されている(名称高遠のコヒガンザクラ樹林)。

昭和61、62年度に高遠城跡の『史実に基づき遺構の整備復元等、将来計画を樹立し史跡の存続を図ることを目的』として、保存管理計画が作成された。続いて、この保存管理計画を受けて、平成11、12年度には史跡高遠城跡整備基本計画を策定した。整備基本計画の中で、1. 遺構の保存、修理 2. 縄張りの復元 3. 人々に親しまれた景観の保全 4. 史跡の公有地化の4項目を計画策定の基本認識に位置付けている。すなわち、史跡高遠城跡の整備は、鹿城直前の高遠城に限りなく近づけて、曲輪、石垣、土塁、堀等の遺構を復元し、既に城跡と一体のものとして認識されているタカトオコヒガンザクラの保護・育成との調和を図りながら保存していくことである。

そしてこのような経緯を踏まえ、平成17年3月、直面している緊急的な課題への対応として『史跡高遠城跡整備実施計画』を策定した。整備実施計画の中で優先的に取り組むべき整備内容として、1. 緊急性のある破損遺構の保護保全 2. 新たな遺構破損への対策 3. 史跡公開における安全性の確保 4. 高遠城跡の歴史性や整備事業に対する町民や観光客の理解と関心の向上を掲げ、この事業着手に向けて、1. 遺構調査の実施・検討 2. 遺構の保護保存 3. 分かり易い環境整備の実施 4. 植生の管理・保全と景観確保 5. 総合的な高遠城跡の歴史性の確保・保全を事業方針として新たに挙げた。

平成17年度、二ノ丸では建物遺構の有無、残存している場合には、規模や遺構面の深さの確認、南曲輪では遺構の残存状況と南曲輪虎口構造の確認、また、高遠城跡では桜と史跡の共存を掲げており、桜の根が史跡に与える影響と桜の立ち枯れについて今後の対策を検討するため、調査区内での根の深さ、広がりや遺構面との関係を調査確認するためにトレンチを設定し、試掘調査を実施した。

平成17.7.25 現状変更許可申請書(発掘調査) 二ノ丸・南曲輪

平成17.9.2 文化庁より現状変更許可(発掘調査) 二ノ丸・南曲輪

第2節 発掘調査の組織

○高遠町教育委員会

教育委員長	——	阪下 哲彦	委 員	——	清水 加代子
委員長代理	——	原 太 郎	委 員	——	原 和 男
教 育 長	——	中 原 長 昭	教 育 次 長	——	伊 藤 順 一

生涯学習係長	— 伊藤 隆 博	生涯学習係	— 伊藤 透
生涯学習係	— 北原 善 昭	”	— 嶋田 佳 寿子
”	— 伊藤 泰 史	”	— 伊 東 修
社会教育指導員	— 丸 田 武 男	北原世津子	

○発掘調査団

発掘調査団長 — 丸山 敏 一 郎

○発掘調査、整理作業に参加された方々(敬称略)

伊藤 定 雄 小松 勝 司 多田 羅 弥 和 西村 清 昭 水山 志 津 江

第3節 発掘調査の経過(調査日誌より)

平成17年

- 9月26日 事務局と調査団長による発掘調査打合せ。
- 9月28日 発掘調査区の設定、基準点設置。
- 9月30日 調査団結成式。
- 10月 3日 高遠閣前で安全祈願実施の後、調査開始。二ノ丸高遠閣前を第1トレンチとし、東西方向に4m間隔で杭を打ち、西より1-1、1-2、1-3、1-4、1-5と番号を付ける。発掘調査前の状況を写真撮影後、掘削を開始する。1-5で桜の根が地表面から2~5cmの深さで横に伸びている状況を確認する。
- 10月 6日 第1トレンチ掘削。1-2より直径13cmの杭穴を検出。1-3、1-5より水道管の埋設を確認。第1トレンチ周辺を実測し、平面図を作成。
- 10月 7日 第1トレンチを掘削。1-1より水道管と礎石を思われる平石、1-2より低圧電ケーブルと平石を検出。1-3からは石と礎の間から陶磁器、ガラス等が多数出土する。
第1トレンチの掘削状況を写真撮影。
高遠閣南に設定したトレンチを第2トレンチとし、南北方向に4m間隔で杭を打ち、区分けを行う。北より2-1、2-2、2-3、2-4、2-5とし、調査前の現状を写真に収める。
- 10月11日 第2トレンチの調査を開始する。
- 10月12日 7日に1-1、1-2より礎石と思われる平石を検出したため、調査範囲を1-1の北側へ2×4m(東西×南北)拡張し(1-0とする)、礎石の並びを確認するために掘削を開始する。1-5の北側では、空堀に面して石垣が確認されたため、調査範囲を拡大し、1-6とする。
- 10月13日 1-5、1-6の調査を進めると、石垣背面の栗石と思われる集石が確認される。配石の状況を写真撮影した後、第1トレンチ全体及び周辺と北壁断面を実測。
- 10月14日 第1トレンチ北壁断面の実測と平行し、第2トレンチの調査を進める。2-1は桜の根に全面覆われている。2-2からは桜の根の下に東西方向でビニールパイプが通り、その下にクロスする形で江戸時代に敷設したと思われる直径15cmほどの土管が出土した。2-4からは南端部で東西方向に伸びる約50cm幅の小機群を検出し、その下からは赤味がかった直径約9cmの土管が出土した。中央部では栗石も検出する。2-5では2-4で出土した土管の延長線上に東西にクロスする形で電話ケーブルを検出した。
- 10月18日 降雨のため、午前中は遺物の洗浄を行う。

- 10月19日 2-4の平面実測図化と断面実測図化を行う。第2トレンチの写真撮影、第1トレンチ枡形周辺石垣の写真撮影。南曲輪の調査箇所を設定した後、掘削開始。歩道を挟んで、北側を第3トレンチ、南側を第4トレンチとする。さらに両トレンチ内を東西に2分し、東側をそれぞれ3-1、4-1とし、西側を3-2、4-2とする。
- 10月20日 長野県教育委員会西山克己指導主事による現地指導。ダガー（コヒガンザクラの保護のために踏み固められた土壌に空気と養分を送り込む機械）の使用が埋蔵遺構に与える影響を確認するため、桜守にダガーの実演をしてもらう。ダガーが土壌に与える影響は地表下15～20cm程度であり二ノ丸のこの地区では埋蔵遺構の深度は約40cmであるため、ダガーの使用が遺構の破壊に直接繋がらないだろうと予想される。
2-2、2-5の平面実測図化と東壁断面の実測図化。
- 10月21日 2-1、2-2、2-3の平面実測図化と断面実測図化。南曲輪3-1、4-1からはバックホーで掘削した爪痕を確認する。この区画は重機で穴を掘り、花見の時期に出た大量のゴミを焼却し、埋設したと思われる。
- 10月25日 南曲輪の調査と第2トレンチ周辺の平面実測図化、2-2、2-5の写真撮影。
- 10月26日 第1トレンチ枡形石垣周辺実測図化。1-0、1-1東壁断面の実測図化。第1トレンチ、第2トレンチ全体の写真撮影。
- 10月27日 1-6の北壁断面実測図化。
- 10月28日 1-6の北壁断面実測図化と枡形石垣周辺の写真撮影。
- 10月31日 長野県埋蔵文化財センター河西克造調査研究員による現地指導。門の両側数mの範囲で石垣が出てくる事例はあるとのこと。検出石垣の天端は生きていないので、根石ではないかという。もう少し掘削して確認すべきであるとの見解をいただく。
- 11月 1日 1-6の平面実測図化と写真撮影。
- 11月 2日 1-6西壁の断面実測図化。
- 11月 4日 3-2の実測図化と南曲輪内トレンチの写真撮影。
- 11月 7日 第1トレンチ埋め戻し。①洗い砂、②土、③肥料、④石、⑤土の順序で埋め戻す。
- 11月 8日 南曲輪全体の写真撮影および、測量図化。4-2の平面実測図化。
- 11月 9日 4-1の平面実測図化、写真撮影。
- 11月11日 第3トレンチの写真撮影。
- 11月14日 出土遺物の洗浄作業。道具、テントの片付け。
- 11月16日 第3トレンチ埋め戻し。道具の洗浄と片付け。調査終了。


第2章 史跡高遠城跡の環境


第1節 高遠城跡の位置

高遠城跡は、中央構造線に沿って南に向かって流れる藤沢川と北に向かって流れる三峰川とが、ともに流路を西に向けて合流する地点の東側台地上に位置する。北は藤沢川に侵食された急な斜面。南、西は三峰川によって侵食され、基盤岩が露出した急崖となっている。三峰川との比高はおおよそ70mで西



第2図 高遠城跡の位置

 史跡指定範囲

0 1000M

 1:25,000

周辺遺跡分布

1. 上手垣外 2. 桂泉寺(院) 3. 花畑 4. 堀 5. 西勝間 6. 後沢 7. 北垣外
8. 竹垣外 9. 釣場の城山 10. 山田城 11. 丸山城 12. 山田古城

は高遠町の街並みの後ろに北から連なる鉾持山の絶壁が三峰川に迫り、南は白山の絶壁が三峰川に迫っている。東は月藏山の山麓まで続く平坦面である。標高およそ805m内外である。城跡から三峰川の谷奥に南アルプスの仙丈ヶ岳を仰ぎ見、西に向かっては高遠町の街並み、伊那市市街とその背後の中央アルプス連山を望むことができる。天険の要害であるとともに絶景の地にある。

高遠は高遠藩三万三千石の城下町であるとともに、杖突街道の宿場でもあり、江戸時代から明治にかけて上伊那地方の政治文化の中心であった。高遠から北に藤沢川に沿って遡ると、杖突峠を越えて諏訪盆地に至り、三峰川に沿って南に遡り、分杭峠を超えて地蔵峠に通ずる秋葉街道は信仰の道であるとともに、三遠地方との文化、物資交流の道でもあり、高遠は古くから交通の要所でもあった。

『高遠町誌』には、高遠城跡の位置する東高遠の台地上、三峰川を挟んだ対岸の勝間地区、小原地区、下山田地区、藤沢川を挟んだ対岸的場地地区、西高遠地区から縄文時代、弥生時代、古代さらに中世の遺物が各所で採集されている記録が記載されているが、勝間地区の堀遺跡以外は学術的な調査が行われていないため詳細は不明である。また、的場地区の城山、下山田地区の古城・山田城・丸山城・与市城・小池城、藤沢川に沿って台の城山・栗木田城・中条の城、長谷村の非持城・溝口上ノ城・溝口下ノ城・長城・神明城など中世の山城あるいは居館跡と伝承される遺跡が点在しているが、詳細は明らかでない。

第2節 高遠城跡の歴史的環境

高遠城を現在の位置に築城した確実な史料と言われているものは、武田信玄の側近の臣、高白斎が記した『高白斎記』である。これによると天文16年(1647年)3月のところに、「高遠山の城鍛立て」とある。これは信玄がまったくの処女地に築城したのか、あるいは信玄に滅ばされた高遠氏の居住地を拡張改修したのか明らかではないが、当時築城技術に秀でていた山本勘助の縄張りによって行われたと伝えられており、本丸西側の一面に勘助曲輪の名が残っている。これらのことから高遠城は信玄が築城したと考えられている。

築城以来、武田氏(35年間)、保科氏(毛利氏、京極氏の支配を含めて53年間)、鳥居氏(53年間)、幕府領(2年間)、内藤氏(182年間)とおよそ350年間にわたり南信州の中心として栄えた城である。

残された絵図が数十点ある。絵図により城跡の変遷をたどると、保科氏以前は大手が東にあり、笹曲輪は無かったと思われる。徳川幕府の支配体制の基盤が固まった保科氏時代に、大工事を行って、大手の位置を東から西に移したと思われる。宝永・享保年間など数度の地震により建物・堀・土居・石垣などが破損し、幕府の許可を得て修復を行っている。廃藩となり、明治5年、城内の建造物すべてが払い下げられた。

高遠城跡の現状をみると、二ノ丸、本丸、南曲輪、笹曲輪、法幢院曲輪のほとんどが国有地あるいは町有地であり、この中にあった民家や桜の花見時に開業していた飲食店も撤去され、往時の建築物は残されていないが、城郭の縄張りの様相をよく留めている。三ノ丸は民有地が多く民家、商店が建っており、各種の看板なども多く雑然としている。三ノ丸の北西部はかつて長野県高遠高等学校の敷地であり、校舎の建設にあたって削られている。また、三ノ丸西側から勘助曲輪にかけては二ノ丸を削り、堀を埋めてグラウンドに造成したために大きく改変されており、往時の痕跡を留めない。

現在の高遠城跡は史跡として良好に遺構を残す全国的にも注目される中・近世の城郭跡であるとともに、長野県天然記念物に指定され、全国的にも知られるコヒガンザクラの名所でもあり、観桜期には40万人を超える観光客が訪れる。史跡としての高遠城跡、桜の名所としての高遠城跡、両者が成立し整備を進めなければならない。また、二ノ丸に昭和11年に建てられた高遠閣が平成14年に登録有形文化財に登録された。

第3章 長野県天然記念物 高遠のコヒガンザクラ樹林の現状

第1節 高遠のコヒガンザクラ樹林の現状

高遠城跡の桜は、明治8年頃から、高遠城の三峰川を挟んで対岸にあった小原桜の馬場から壱（ひこばえ）を移植して育てたもので、大正15年に長野県史蹟名勝天然記念物に指定されている（調査委員 小泉秀雄 八木貞助『高遠公園の小彼岸桜』史蹟名勝天然記念物調査報告 大正15年3月）。この報告書によると、高遠公園の桜は、大正15年頃にはまだ広く知られてはいなかったが、見事な樹林であったことが伺える。植栽後50余年が経過してもなおも健康に開花し衰えていないこと。しかも他の種をほとんど交えないコヒガンザクラの純林であることが高く評価されている。当時、310本の桜が本丸を中心に植栽されており、4回に分けて植栽されたと想定し、その内訳は、第1回、周囲5尺、高さ6間以上のものが24本、第2回、周囲3尺～5尺、高さ4間～5間半のものが57本、第3回、周囲1尺～3尺、高さ2間～4間のものが29本、第4回、周囲1尺以下、高さ1間から2間のものが200本としている。高遠町では予算の許す範囲内で桜樹全体に施肥（人糞尿）し、毎年その額は50ないし60円に上ったようである。



1 若返りの処置をとっているサクラの様子



2 本丸古木の現在の様子

次いで、昭和35年に長野県天然記念物に指定されたが、そのときの調査報告書によると、50年以上のものが230本余り、30～50年のものが260本くらい、30年以下の若木を合わせると800本近くになる。ほとんど他種を交えない純林である。古いものは80年以上の老齢であり、中には目通りの周囲2メートル以上のものだけでも20数本ある。しかし今、若返りの処置が施されているので、花のつきは、そう悪くは無いとしている。具体的な若返りの処置として、写真1のように老木に壁土を付け、籐を巻きつけ、桜の不定根・不定芽の性格を利用して若木の生育を図っている。そのほかにも桜の延命策をいろいろと試みている。また、4月の観桜期、約40万人の観光客が押し寄せ、地面を踏み固めることから、主要な部分を柵で囲ったり、耕運機で表土を攪拌して軟らかくするといった努力も行われてきた。明治8年に最初の植栽が行われてから130年が

経過している。本丸内に幹の途中から根が伸びたり、新しい若い幹が伸びている古木(写真2)、親木は朽ちて葉(ひこばえ)が成長しているものなどが20本以上あるが、おそらくこれらが最初に植栽されたものであろう。桜の寿命は50年位とされているが、タカトオコヒガンザクラの中には100年以上花を咲かせているものがあることになろう。現在長野県高遠高等学校が小原地区に移転してからは、高校跡地にもコヒガンザクラが植栽され、現在は公園全体では1500本くらいの桜があると思われる。

県天然記念物高遠のコヒガンザクラ樹林保護のために、高遠町では枯枝、天狗巣病の処理、カイガラムシ、ウソなどの病虫害の駆除を行うとともに、観桜期に踏みつけられた地面を柔らかくし、桜の根に水分と養分をいかにして供給するか、工夫を凝らしている。

第2節 史跡保護と天然記念物保護に係る経過

史跡内に繁茂する高遠のコヒガンザクラの樹林は全国的な桜の名所となっており、現在では史跡と一体となった景観を作り上げている。高遠町が平成12年3月に策定した『史跡高遠城跡整備基本計画』では、「タカトオコヒガンザクラは城跡と一体のものとして人々に認識され親しまれているため、史跡と併せてコヒガンザクラの保護・育成を行い、景観の保全を目指す」とし、コヒガンザクラと史跡の共存を掲げた。

全国的な桜の名所となる中で、前節で述べたように踏み固めの影響によりサクラの根の成長が妨げられ、特に老木には樹勢の衰えに拍車をかけている。サクラの保護・育成を検討する町の諮問機関「さくら専門指導委員会」では、樹勢回復の方法について議論を続けてきたが、その方策として、「専用機械(ダガー)により圧縮空気を注入し、その孔より肥料を施すという方法が相応しい。」と結論を出した。これは、機器の先についた直径1.5cmの鉄管を地下30~40cmに挿入し、鉄管の先より圧縮空気を地中へ送る方法である。施工範囲は、特に踏圧の激しい二ノ丸、南曲輪の平地部分とし、1.5m間隔での施工となるため、二ノ丸、南曲輪合わせて約2,600箇所を数える計画であった。しかし、この行為による地下遺構への影響が心配されたことから、教育委員会では「史跡整備実施計画策定委員会」で上記計画を議題として取り上げ、意見を求めた。平成16年6月27日開催の史跡整備実施計画策定委員会では、「ダガーの施工によって遺構が破壊される恐れがあるが、今までに行われた発掘調査結果からでは、遺構がどの深さにどの程度残っているか明らかではない。遺構に影響を与える可能性がある深さの基準を明確にする必要がある。」とし、「そのために遺構確認調査を実施すべく国と協議を進めること。」との意見をいただいた。また、平成16年8月17日付で、高遠町より高遠町教育委員会宛てに「高遠城址公園内のタカトオコヒガンザクラの樹勢回復計画について(協議)」と文書で正式に協議の申し入れがあったことから、史跡整備実施計画策定委員会とさくら専門指導委員会の合同会議を開催し、樹勢回復の方法について議論を深め、ダガー施工の前に遺構確認調査を実施し、地下遺構に影響がないと判断された場合、ダガーによる樹勢回復措置を行うということとなった。

こうした動きの中で平成16年6月以降、町教育委員会は本件について長野県教育委員会を交えて文化庁記念物課と協議を実施してきた。「遺構に影響を及ぼさないことが認められれば、ダガーによる樹勢回復の措置が可能であり、その是非を判断するためには、遺構とサクラの根の深さを推測できる資料を得ることが肝心であるため、遺構確認調査の方法を検討すること。また、サクラの根の広がり方と根の位置の把握するのは勿論であるが、サクラのためだけの調査と

ならないように、今後の遺構整備の計画と連動した調査を行うようにすべきである。」という文化庁主任調査官の見解を受け、史跡内に50m間隔で東西南北のメッシュを設定し、それに基づいて絵地図等より建物遺構が想定される場所を検討した上で、桜の根と遺構の関係について資料が得られると思われる箇所調査区を設定した。また、城跡内の曲輪全体を対象として一斉にダガーの施工をするのではなく、状況を見ながら段階的に実施するため、平成17年度については、桜の傷みの激しい二ノ丸と南曲輪の調査を先行して行うこととした。

- 平成16年 6月17日 史跡整備実施計画策定委員会
- 平成16年 6月17日 長野県教育委員会を通じて文化庁へ相談(電話連絡)
- 平成16年 7月23日 文化庁協議
- 平成16年 8月17日 高遠町より高遠町教育委員会宛協議書の提出
- 平成16年 8月18日 長野県教育委員会へ出向き協議
長野県教育委員会を通じて文化庁へ相談(電話連絡) 現状変更の趣旨理解
- 平成16年 9月23日 史跡整備実施計画策定委員会、及びさくら専門指導委員会との合同会議
- 平成16年11月 8日 文化庁協議
- 平成16年11月10日 史跡高遠城跡整備実施計画策定委員会で協議結果報告
- 平成17年 1月28日 史跡整備実施計画策定委員会で発掘調査箇所確認、了承
- 平成17年 6月13日 文化庁協議
- 平成17年 7月25日 発掘調査の現状変更許可申請
- 平成17年 9月 2日 現状変更許可
- 平成17年10月 3日から平成17年11月16日 発掘調査実施

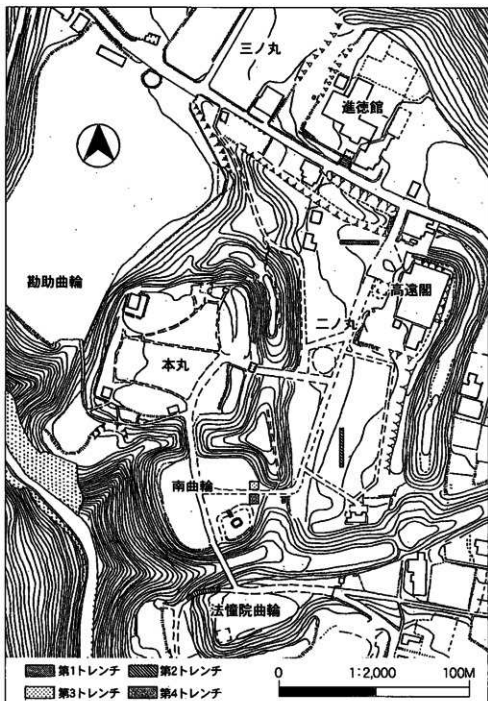
第4章 発掘調査の結果

第1節 発掘調査

平成16年度に策定した『史跡高遠城跡整備実施計画書』にもとづいて遺構確認のための試掘調査を行った。調査地区は3箇所(第3図)。第1トレンチは三ノ丸から土橋を渡って二ノ丸に入ったところの右側に設置し、二ノ丸の枡形、土蔵、土塁の状況を確認することを目的とした。第2トレンチは二ノ丸の南に設置し、厩などの遺構の状況を確認することを目的とした。第3・4トレンチは二ノ丸から土橋を渡って南曲輪に入った両側に設置し、南曲輪の枡形、土塁の状況の確認を目的とした。第1・2トレンチは、昭和34年から平成5年ごろまでであった花見時の季節飲食店が建っていた所と重なっている(第4図)。今回の調査で出土した陶器、磁器などの遺物の多くは、これに関わるものの可能性が高い。

1. 第1トレンチ

三ノ丸から二ノ丸に土橋を渡って入った右側に、東西に長さ20m、幅2mのトレンチを設定、西から4m間隔に区分し、1～5区とする。ここにはかつて料理店“おもいで”があった。廃藩時にはこのあたりには二ノ丸枳形、土塁、その内側に番所、土蔵があったと想定される位置である。試掘調査に結果、北側堀の縁から5～7mほどは土塁であったと想定したが、土塁の痕跡は確認できなかった。1区と2区の北寄りに安定して据えられた礎石と思われる石が2個並んで検出されたので、1区を北側に2m拡張し0区とした。0区においても前者とほぼ同レベルの高さで礎石と思われる石が確認された。3個の石の間隔はほぼ180cmである。石の上面は平らであり、大きさは直径25～40cm、厚さは10～13cm。3個の石の北側にも数個の石が確認されたが20cmほど高かった。



第3図 平成17年度 高遠城跡発掘調査地区

周辺からはこのほかにこれらと関連すると思われる遺構は検出されなかったので建物の礎石とは断定できない。1-0区の北西隅からはブロックなども出土し、大きく攪乱されていた。

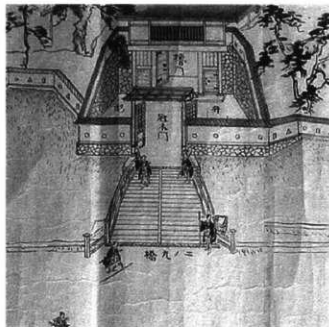
1-3区ではぼんやりとした窪み状の窪みが多数検出されたが新しいものと思われる。南西の攪乱されたところから多くの陶磁器片が出土した。

1-5区では暗褐色の土が入っている落ち込みが検出された。また、1-4・5区の北側の堀端に今まで確認されていなかった花崗岩の切石を用いた石垣の一部が確認されたので、1トレンチを北側に拡張した(1-6区)。拡張した部分には石垣の根石と思われるものが3個、その東に4個の石が確認できた。

石垣A・B・Cの裏には幅50~100cmに亘って、拳大から人頭大位の石が裏込めとして詰められており、大手石垣の調査での



第5図 第1トレンチ位置図(撤去した喫茶店との位置関係)

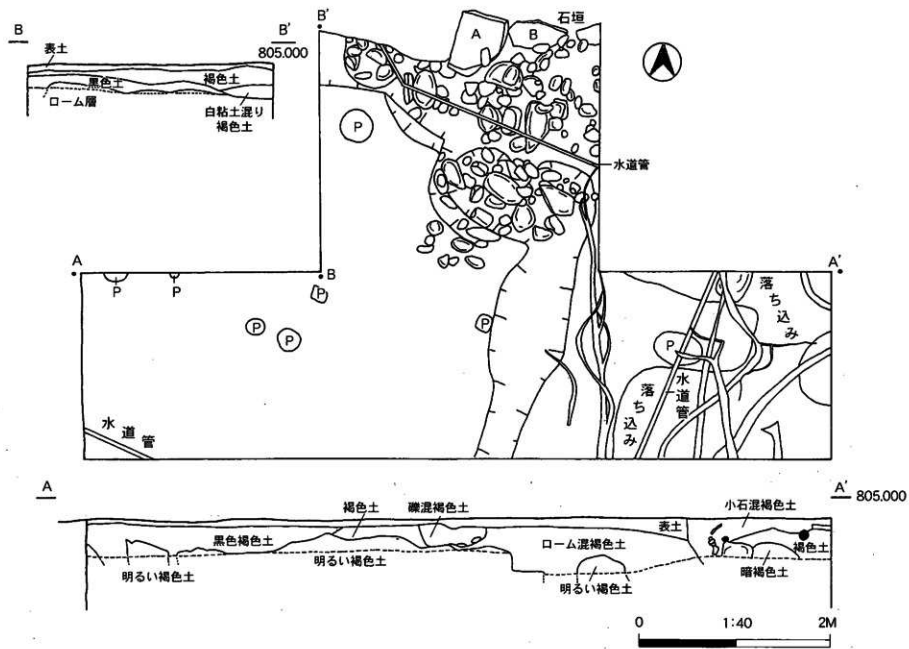


3 堀外から見る二ノ丸櫓形の様子(高遠城外郭図)

形と結びつく遺構は確認されなかった。このトレンチには1-2区に1本、1-5区に数本の桜の根があり、根は地表面から20cmぐらいまでの深さで横に広がって伸びている。これよりも深いものはまれであった。

所見と同様に、古風に思われる。ここは二ノ丸櫓形の位置に近いと想定され、櫓形の石垣あるいは土塁・塀の基礎となる石垣の根石の一部ではないかと考えられる。石垣の南に検出されたフラスコ状の窪みと充満している配石、1-5区の落ち込みも櫓形、土塁あるいは塀の痕跡を残すものではないだろうか。

昭和39年高遠城跡を長野県史跡に指定したときの調査報告書によると、二ノ丸櫓形の冠木門の礎石を残すのみと記載されているが、現在では確認できない。また、二ノ丸御門の確認を目的に行われた、昭和63年の発掘調査では、礎石底部の割栗石などが確認されたが、明確に二ノ丸櫓



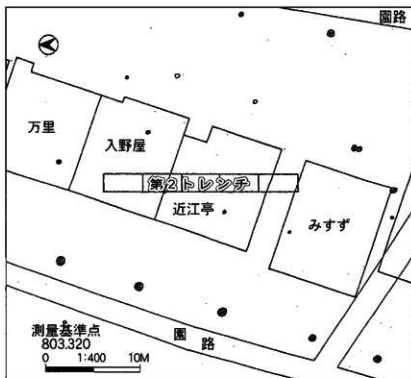
第7図 第11トレンチ平面・断面実測図(1-4~1-6)

(出土遺物)

第1トレンチの出土遺物、表1-0-1(鉢 墨書有)・2(摺鉢)・3(鉢)、1-1-3~6(伊万里)・11(かわらけ)、1-3-3(天目茶碗)・20(内耳土器)、1-6-2(平碗)、平瓦などは江戸時代までさかのぼると思われるが、最も集中して陶磁器類が出土した1-3区の攪乱部分から出土したものは、ここにあった飲食店が破棄したものだ。明治以降の新しい遺物と思われる。昭和63年の二ノ丸門の遺構確認調査でも多くの瓦が出土していたが、二ノ丸櫓門は瓦葺であったと記録されている。

2 第2トレンチ

二ノ丸の南よりに南北長さ20m、幅2mのトレンチを設定し、北から4m間隔に区分し、1~5区とする。廃藩時にはここに厩あるいは土蔵があったと想定される位置である。第二次世界大戦直後にはこの一帯は畑であった(写真4)。



第8図 第2トレンチ位置図(撤去した茶店との位置関係)

このトレンチ設定場所も第1トレンチと同様、昭和34年から平成5年まで桜の花見時に9軒の料理店が建っていたところである。この一帯に植えられている桜は料理店の撤去後に植栽したもので若い木である。2-1区の北東隅に桜の木が1本あるが、これは地表面に30cmほど盛土をして植栽されており、盛土して植栽することによってどんな変化が起こるか試験的に試みたものである。2-2区では江戸時代に城内に水を引くために配管されたと想定される土管(土樋)が検出された。地表面からの深さ35~40cm。配石1・2は軸の方向から見てかつてここにあった料理店の土台の栗石の一部と考えられる。2-3区には炭が混じった褐色土の攪乱層が広がっている。



4 第二次世界大戦直後の二ノ丸の様子(第2トレンチ調査地点付近)

2-4区にも同様の攪乱層が続いている。かつて穴を掘って、桜の枯れ枝やゴミを焼いたといわれているが、その痕跡と思われる。配石3も料理店の土台の栗石の一部であろうか。2-4区南よりに拳大の川原石が数十個配されていたが、その目的・性格はわからない。2-4区と2-5区にかけて土管が埋設されていた。2-2区で確認された土管よりも小型で、製作方法も異なっている。高遠焼(丸千組)製作の土管であろう。土管は南から北へ水が流れるように埋設され、ここにあった料理店の軸と方向を同じくしているが、両者の関係はわからない。2-5区の南端近くに東西に埋設されている2本の水道管、北よりに埋設されている電話のケーブルは2軒の料理店の間に埋設されている。電話ケーブルが土管を破壊しているため、料理店建設時あるいはそれ以前に土管が埋設されていたのは確かである。厩・土蔵に関連する遺構は確認されなかった。

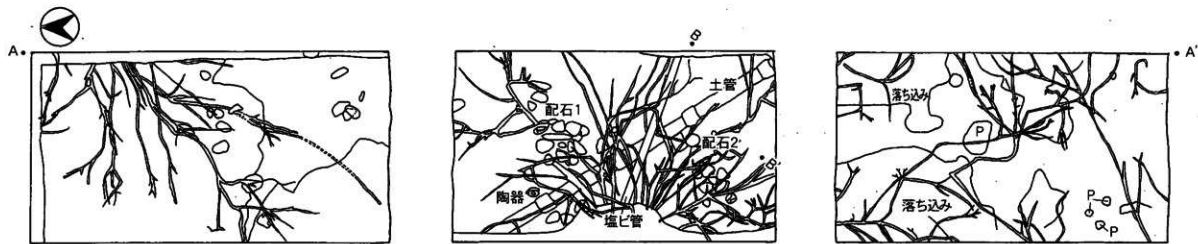
(出土遺物)

第2トレンチからは陶磁器はじめ釘、ガラス、土管など300点以上の遺物が出土しているが、陶磁器のほとんどは小さな破片ばかりであり(5cm四方以下が80%、そのうち3cm四方ぐらいのものが30%)、その多くは瀬戸・美濃産の近代のものである。おそらくここにあった料理店の廃棄物と思われる。

3 第3・4トレンチ

二ノ丸から土橋を渡って南曲輪に入ったところの、右側(第3トレンチ)、左側(第4トレンチ)に、ともに南北5m、東西5mのトレンチを設定し、東側2mを1区、西側3mを2区とした。ここは南曲輪の枀形があった位置と想定される。3-1・2区では南よりに、電気、電話などのケーブルが3本と水道管が埋設されており、そのために幅90cm~55cm、深さ80cmは攪乱されていた。

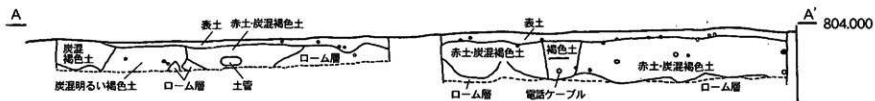
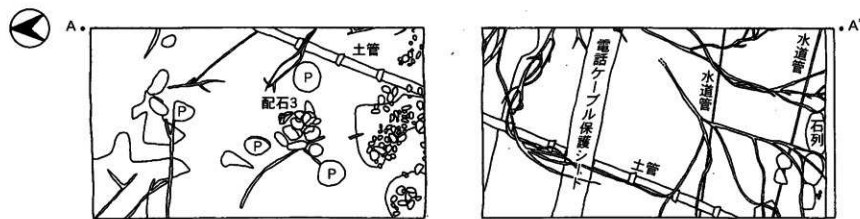
3-1区には北からバックホーでグサッと掘り込んだ跡がある。この掘り込みの中にはゴミやゴミを燃やした大量の灰が埋められていた。3-2区の水道管理設のために掘り込んだ溝のすぐ脇に、50×40cmの川原石が検出され、南曲輪入り口の門の礎石の一部とも考えられたが、周辺には対をなす礎石状のものは確認されず確定は出来ない。また、直径40cmほどの焼土が確認されたが性格は不明である。第3トレンチ全体は、堀に向かって西から東に傾斜しており、表土は浅く、深さ20cmほどで地山のローム層に達する。そのために桜の根は十分に地中に入ることができず、地表に露出している部分が多い。



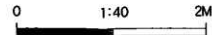
第9図 第2トレンチ平面・断面実測図(2-1~2-3)

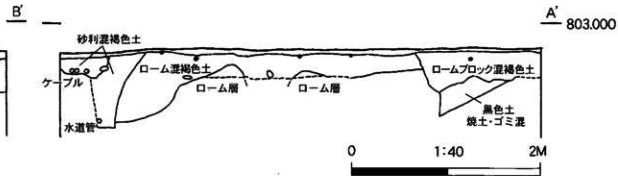
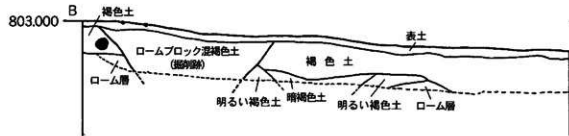
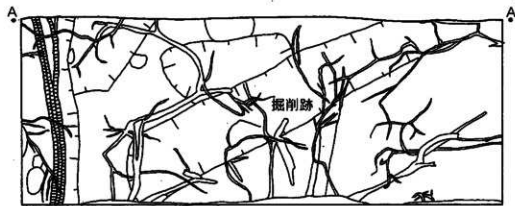
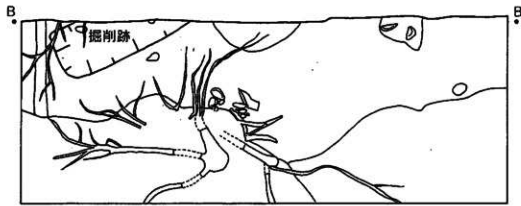
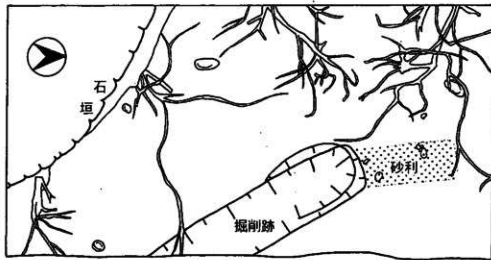


2-2区 土管断面図



第10図 第2トレンチ平面・断面実測図(2-4~2-5)





第11図 第4トレンチ平面・断面実測図(4-1~4-2)

第12図 第3トレンチ平面・断面実測図(3-1~3-2)

バックホーで掘り込んだ穴の部分では桜の根も深く入り込んでいた。第4トレンチにも南からグサッとバックホーで掘り込んだゴミ穴がある。3-1区には桜の木が1本あったために全体像を掴むことができなかったが、北東隅の部分は盛土をしていることが確認された。堆積している土が軟らかいために、他の地区に比べると、桜の根が深く伸びている。4-2区の南西の隅は靖国招魂碑が建っている高台の石垣である。

(出土遺物)

第3・4トレンチ合わせて、30点ほど

の陶磁器片が出土しているが、ほとんど5cm四方以下の小片であり、近代の焼き物が主である。小さな瓦片がいくつか出土しているが、南曲輪に江戸時代に瓦屋根葺きの建物があった記録は無い。



5 第3・4トレンチに埋められていたゴミ

第2節 高遠焼きについて

高遠焼は文化10年(1814)、多治見から陶工加藤治兵衛を迎えて、勝間川原に窯を築き、高遠城の東、月蔵山麓の種ヶ沢から城内に水を引く土管(種)を製作することに始まる(種ヶ沢から城内まで18町38間、3尺の土管で12,000本)。文化11年(1815)の文字を掘り込んだ土管、銘の無い土管が月蔵山麓、城内から発見されている。なお、種ヶ沢ではなく、高遠城の南東方、同じ月蔵山麓の落花沢からも同様の土管が出土している。

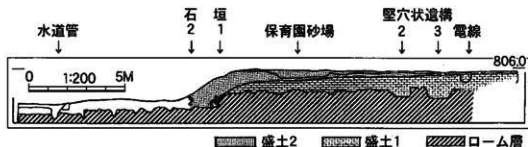
土管の製造のかたわら美濃から陶土、釉薬を取り寄せて瀬戸物も焼いている(御愛想焼)。その後、藩の自家用品を焼き(御庭焼)、後に民窯の高遠焼となる。①勝間窯 ②庄野山窯 ③長藤柴田窯 ④相生安田窯 ⑤番匠焼進窯 ⑥丸千組九連窯などが順次起こった。

種ヶ沢から城内まで埋設した土管は、素焼きで茶褐色、円筒状のもので、繫目は粘土で巻いてあったようである。今回出土した土管は瓦質に焼かれ、繫目はソケット状になっている。②庄野山窯では専ら瓦を焼いていたとされているので、庄野山窯で焼かれたものであろうか。種ヶ沢からの水は南曲輪に引くのが目的であったとされているが、今回確認された土管は南曲輪には向かっていない。土管そのものの製法は両者とも同じである。

高遠焼は美濃の陶工によって始まり、美濃から陶土、釉薬を取り寄せて焼いたこともあり、瀬戸・美濃の製品と区別するのが難しいものもあるようだ。

第5章 まとめにかえて

本年度の試掘調査では、廃藩当時の高遠城の遺構と地下に埋設している遺構と桜の木の根の高低の関係を確認することが目的であった。結論から先に述べると、二ノ丸柵形の遺構の一部かと思われる石垣と、江戸時代の土管(樋)と想定されるものが確認されたが、建物などの遺構を確認することは



第13図 高遠閣周辺土層断面図

(平成15年度 高遠城跡二ノ丸・三ノ丸ほか埋蔵文化財発掘調査結果より作図)

できなかった。二ノ丸内で、本年度の発掘調査以前に便所の建設、下水道管の埋設などの事前調査として5回の発掘調査が行われているが、確実に廃藩以前の遺構と認められるものは確認されていない。したがって、遺構面の深さがどの位であるかを明確にすることはできない。現在確認されている人為的な変更が行われていない自然堆積のまま残っている地層はローム層である。このローム層も、長い間に表面が削られており、堆積した状態で残っているところは確認されていない。最もローム層が高い位置で残っているのは、高遠閣内の床下で、標高およそ805.1mである。ついで旧保育園の庭である(標高およそ805m)。二ノ丸の平坦部のローム層は標高およそ804m、高遠閣、旧保育園より1mほど低い。おそらくローム層は東から西に向かって若干傾斜を持ちながら堆積していたと考えられるので、1m近くは後世掘削されたものと思われる。

高遠城の遺構と桜の木の根の高低の状況を明確にすることはできなかったが、桜の根は意外に浅いところで横に広がっていることが確認された。掘削によって土が柔らかくなっているところでは表土から40cm位深いものもあったが、多くは20cm前後の深さであった。

《 参考文献 》

『史跡高遠城跡保存管理計画策定報告書』	高遠町教育委員会	昭和63年3月
『史跡高遠城跡整備基本計画書』	高遠町教育委員会	平成12年3月
『史跡高遠城跡整備実施計画書』	高遠町教育委員会	平成16年3月
『高遠城』	高遠町文化財保護委員会	昭和61年4月12日
『高遠城跡二ノ丸門発掘調査報告書』	高遠町教育委員会	昭和62年8月10日
『高遠城跡二ノ丸・三ノ丸 ほか埋蔵文化財発掘調査報告書』	高遠町教育委員会	平成15年3月
『高遠町誌 上巻歴史』	高遠町誌刊行会	昭和58年3月30日
馬島律司 『高遠城』	高遠城研究保存会 伊那毎日新聞社	昭和50年6月25日
前林政行 『高遠城集成』	鬼灯書籍株式会社	平成6年3月2日

『長野県史蹟名勝天然記念物調査報告 第2巻』	長野県文化財保護協会 復刻版	昭和49年5月20日
『長野県史蹟名勝天然記念物調査報告 第7巻』	長野県文化財保護協会 復刻版	昭和50年9月20日
『長野県指定文化財調査報告 自第1集至第7集』	長野県文化財保護協会 復刻版	昭和53年2月 5日
『新編信濃史料叢書 第5巻』『新府統記 上』	信濃史料刊行会	昭和48年9月15日
「国立国会図書館所蔵の『日本城郭史資料』について -信濃国(一)・(二)所収資料の紹介-」 『市誌研究ながの』第5号	河西克造著 長野市誌編さん委員会	平成11年1月
『瀬戸市史 陶磁史篇 四 瀬戸大窯の時代』	瀬戸市史編纂委員会	平成5年
『瀬戸市史 陶磁史篇 五 瀬戸の本業焼』	瀬戸市史編纂委員会	平成5年
『瀬戸市史 陶磁史篇 六 近世瀬戸焼の生産と流通』	瀬戸市史編纂委員会	平成11年

平成17年度 史跡高遠城跡二ノ丸・南曲輪試掘(遺構確認)調査遺物一覧表

調査区	番号	遺物番号	器種	産地等	時代	備考	実測図	写真図版	概寸(cm)
1-0	1	シロ051013-1-01	鉢	瀬戸・美濃	18世紀末か19世紀	高台裏に墨書あり	第14図 3	図版 45・47	5.3×9.7
	2	シロ051013-1-02	楕鉢	瀬戸・美濃	16世紀	大窩期 底部	第14図 1	図版 45	5.8×8.8
	3	シロ051013-1-03	鉢か	在地か	文化文政期以降		第14図 2	図版 45	4.2×6.0
1-1	1	シロ051003-1-1-1	湯呑茶碗	瀬戸・美濃	19世紀	染付磁器 高台	第14図 6	図版 46	3.2×4.8
	2	シロ051003-1-1-2	不明	不明	不明	磁器		図版 46	2.4×1.7
	3	シロ051007-1-1-1	不明	伊万里	18世紀	IV期 染付	第14図 4	図版 46	3.4×3.3
	4	シロ051007-1-1-2	不明	伊万里	18世紀	IV期 染付		図版 46	2.5×2.5
	5	シロ051007-1-1-3	不明	伊万里	18世紀	IV期 染付 口縁部		図版 46	2.5×3.6
	6	シロ051007-1-1-4	不明	伊万里	18世紀	IV期 染付		図版 46	3.5×1.7
	7	シロ051012-1-1-1	平瓦	不明	不明		第17図 23	図版 48	9.8×9.6
	8	シロ051012-1-1-2	平瓦	不明	不明			図版 48	6.2×10.2
	9	シロ051012-1-1-3	平瓦	不明	不明	051012-1-1-3-5接合		図版 48	5.2×11.0
	10	シロ051012-1-1-4	平瓦	不明	不明			図版 48	4.6×7.2
	11	シロ051012-1-1-6	かわらけ	在地	18世紀	口縁部～底部 051012-1-6-7 接合	第14図 5	図版 46	5.2×5.6
	12	シロ051026-1-1-1	急須	不明	近代	底部 051026-1-1-1-2接合			3.7×4.7
	13	シロ051026-1-1-3	不明	不明	近代以降				2.2×4.3
	14	シロ051026-1-1-4	平瓦	不明	不明				5.1×7.2
	15	シロ051026-1-1-5	平瓦	不明	不明				4.1×4.5
	16	シロ051026-1-1-6	平瓦	不明	不明				3.4×4.1
	17	シロ051026-1-1-7	平瓦	不明	不明				3.3×4.2
	18	シロ051026-1-1-8	平瓦	不明	不明				2.4×3.1
	19	シロ051026-1-1-9	研石	不明	不明				4.6×4.0
	20	シロ051026-1-1-10	鉄片	不明	不明	1-2間溝より出土			
1-2	1	シロ051003-1-2-1	碗	瀬戸・美濃	明治20年代以降	染付 051003-1-2-1~3接合 051003-1-2-4と同一器体か	第14図 8	図版 49	4.3×7.3
	2	シロ051003-1-2-4	碗	瀬戸・美濃	明治20年代以降	染付 051003-1-2-4~5接合 051003-1-2-1と同一器体か	第14図 7	図版 49	3.8×6.7
	3	シロ051003-1-2-6	不明	瀬戸・美濃	不明	型打			1.2×3.2
	4	シロ051003-1-2-7	軒平瓦	不明	19世紀(幕末)	唐草文 051003-1-2-7-8接合	第14図 9	図版 49-50	5.1×10.2
	5	シロ051003-1-2-9	火鉢類	在地	不明				2.7×3.0
	6	シロ051003-1-2-10	火鉢類	在地	不明				3.0×2.7
	7	シロ051007-1-2-1	徳利	瀬戸・美濃	19世紀	染付			3.7×2.4
1-3	1	シロ051003-1-3-1	皿	瀬戸	近代	口縁部～高台 051003-1-3-1-2 接合	第15図 10	図版 51	5.3×10.3
	2	シロ051003-1-3-3	皿	瀬戸	近代	染付 印刷 口縁部		図版 51	4.6×4.1
	3	シロ051003-1-3-4	天目茶碗	瀬戸	15世紀後半	古瀬戸後、期 口縁部	第15図 11	図版 54	4.4×3.2
	4	シロ051003-1-3-5	皿	瀬戸・美濃	近代	染付	第15図 13	図版 51	5.4×13.0
	5	シロ051003-1-3-6	皿	瀬戸・美濃	近代	*染付 口縁部～高台 051003-1-3-6~10接合*	第15図 12	図版 51	8.0×15.0
	6	シロ051003-1-3-11	皿	瀬戸	近代	051003-1-3-11~18接合	第15図 17	図版 51	3.0×11.0
	7	シロ051003-1-3-19	皿	不明	近代以降	*上絵付 051003-1-3-20-22-36と同一器体*		図版 52	4.1×7.2

調査区	番号	遺物番号	器種	産地等	時代	備考	実測図	写真図	概寸(cm)	
1-3	8	シロ051003-1-3-20	皿	不明	近代以降	上絵付 051003-1-3-20-21様合 051003-1-3-19-22-36と同一器体		図版52	4.6×7.0	
	9	シロ051003-1-3-22	皿	不明	近代以降	上絵付 051003-1-3-22~35様合 051003-1-3-19-20-36と同一器体		図版52	7.8×7.4	
	10	シロ051003-1-3-36	皿	不明	近代以降	上絵付 051003-1-3-36~46様合 051003-1-3-19-20-22と同一器体	第16図 15	図版52	190×100	
	11	シロ051003-1-3-47	貝殻片	不明	不明					
	12	シロ051003-1-3-48	ガラス瓶	不明	近代以降					
	13	シロ051006-1-3-1	盃	不明	不明				1.0×1.0	
	14	シロ051006-1-3-2	不明	不明	不明	染付 口縁部			1.1×2.2	
	15	シロ051006-1-3-3	不明	不明	不明	磁器 上絵付			2.6×2.5	
	16	シロ051006-1-3-4	盃	瀬戸・美濃	近代	高台		第15図 15	図版51	5.3×4.8
	17	シロ051006-1-3-5	小皿	瀬戸・美濃	近代	口縁部~高台		第15図 14	図版51	24×5.2
	18	シロ051006-1-3-6	碗	瀬戸・美濃	近代				4.5×6.0	
	19	シロ051006-1-3-7	湯呑茶碗	瀬戸・美濃	近代	染付 口縁部~高台		第15図 16	図版51	4.8×8.1
	20	シロ051006-1-3-8	内耳土器	在地	16世紀半ば以降	大塚(期か)期 内外にすが付着 051006-1-3-8~11様合		第16図 19	図版53	9.3×9.0
	21	シロ051006-1-3-12	七輪の一部	在地	近世~近代				9.8×10.0	
	22	シロ051006-1-3-13	ガラス	不明	近代以降					
	23	シロ051012-1-3-1	碗	瀬戸・美濃	近代	磁器 鉄軸			3.6×3.6	
	1-5	1	シロ051012-1-5-1	平瓦	不明	不明		第17図 20	図版55	23.0×16.5
		2	シロ051012-1-5-2	平瓦	不明	不明		第17図 21	図版55	6.0×5.9
		3	シロ051012-1-5-3	平瓦	不明	不明			図版55	4.9×8.2
		4	シロ051012-1-5-4	平瓦	不明	不明		第17図 22	図版55	6.2×5.2
		5	シロ051012-1-5-5	皿	瀬戸・美濃	近代	染付			2.6×1.2
		6	シロ051019-1-5-1	七輪の一部	不明	不明				3.9×9.0
	7	シロ051019-1-5-2	瓦	不明	近世~近代				8.8×9.1	
1-6	1	シロ051013-1-6-1	盃	不明	近代以降	ほぼ完形			3.8×4.6	
	2	シロ051013-1-6-2	平碗	不明	16世紀前半	大塚.期 口縁部		図版56	3.6×3.0	
	3	シロ051013-1-6-3	スレート瓦	不明	現代				4.5×7.2	
	4	シロ051013-1-6-4	貨幣	不明	不明	昭和49年製造10円硬貨		図版56	2.3×2.3	
	5	シロ051013-1-6-5	包丁片	不明	不明				8.0×21.5	
	6	シロ051013-1-6-6	水道蛇口	不明	現代				6.2×12.0	
	7	シロ051013-1-6-7	電線と端子	不明	近代以降					
	8	シロ051101-1-6-1	火鉢	在地	近代以降				9.0×13.0	
	9	シロ051101-1-6-2	スレート瓦	不明	現代				130×114	
2-1	1	シロ051006-2-1-1	盃	瀬戸・美濃	近代	口縁部			1.5×4.0	
	2	シロ051006-2-1-2	甕	在地	不明	底部			5.0×9.0	
	3	シロ051006-2-1-3	平瓦	不明	不明				4.3×3.3	
	4	シロ051006-2-1-4	平瓦	不明	不明				2.4×3.0	
	5	シロ051006-2-1-5	平瓦	不明	不明				1.9×3.9	
	6	シロ051006-2-1-6	釘	不明	近代				1.0×9.0	
	7	シロ051007-2-1-1	練鉢	不明	19世紀	灰釉陶器			3.0×3.5	

調査区	番号	遺物番号	器種	産地等	時代	備考	実測図	写真図版	概寸(cm)
2-1	8	シロ051007-2-1-2	鉄片	不明	不明				34×106
	9	シロ051011-2-1-1	徳利	瀬戸・美濃	近代以降	染付 銅版転写			44×4.1
	10	シロ051011-2-1-2	不明	瀬戸・美濃	近代	染付 口縁部			4.1×3.1
	11	シロ051011-2-1-3	小皿	不明	近代	染付 口縁部			3.4×3.2
	12	シロ051011-2-1-4	皿	瀬戸・美濃	不明	染付 口縁部			4.4×3.4
	13	シロ051011-2-1-5	徳利	在地	不明				3.5×4.4
	14	シロ051011-2-1-6	大甕	高遠	19世紀(幕末)以降	口縁部			10.0×7.3
	15	シロ051011-2-1-7	ガラス瓶	不明	近代以降				4.8×3.1
	16	シロ051024-2-1-1	鉢	伊万里	18世紀末~19世紀前半	V期 染付		図版57	4.4×2.3
	17	シロ051024-2-1-2	徳利	瀬戸・美濃	近代	底部			2.7×4.2
	18	シロ051024-2-1-3	皿	瀬戸・美濃	近代	染付			1.8×2.9
	19	シロ051024-2-1-4	徳利	瀬戸・美濃	近代	染付			2.1×4.0
	20	シロ051024-2-1-5	徳利	瀬戸・美濃	18世紀末~19世紀前半	陶器			3.3×2.1
	21	シロ051025-2-1-1	徳利	瀬戸・美濃	近代	染付 銅版転写 完形 051025-2-1-1・2接合	第18図 1	図版 57-58	7.5×5.3
	22	シロ051025-2-1-3	茶碗	瀬戸・美濃	近代	染付印刷 051025-2-1-3~6接合	第18図 2	図版 57-58	5.9×11.3
	23	シロ051025-2-1-7	茶碗	瀬戸・美濃	近代	051025-2-1-7~11接合	第18図 3	図版 57-58	5.6×11.1
	24	シロ051025-2-1-12	徳利	瀬戸・美濃	近代	染付			7.6×3.4
	25	シロ051025-2-1-13	徳利か鉢	瀬戸・美濃	近代				4.5×2.0
	26	シロ051025-2-1-14	灰釉丸鉢	瀬戸・美濃	18世紀末~19世紀前半	口縁部	第18図 4	図版57	5.3×4.6
	27	シロ051025-2-1-15	皿	瀬戸・美濃	18世紀末~19世紀初頭	染付 陶器			2.1×4.8
2-2	1	シロ051006-2-2-1	壺打皿	瀬戸・美濃	近代	高台	第18図 5	図版59	5.3×6.3
	2	シロ051006-2-2-2	小皿	瀬戸・美濃	近代	染付 銅版転写 口縁部	第18図 6	図版60	3.0×3.0
	3	シロ051006-2-2-3	青磁	中国	中世			図版60	3.3×5.6
	4	シロ051006-2-2-4	青磁碗	中国	14~15世紀前半	蓮弁			1.9×2.1
	5	シロ051006-2-2-5	平瓦	不明	不明				3.5×5.1
	6	シロ051006-2-2-6	平瓦	不明	不明				5.1×5.7
	7	シロ051006-2-2-7	盃	瀬戸・美濃	近代	染付 高台	第18図 11	図版60	1.6×4.6
	8	シロ051006-2-2-8	盃	瀬戸・美濃	近代	白磁 高台			4.6×3.4
	9	シロ051006-2-2-9	徳利	瀬戸・美濃	近代	染付			1.6×1.4
	10	シロ051006-2-2-10	徳利	瀬戸・美濃	近代	染付			1.8×2.1
	11	シロ051006-2-2-11	籠手茶碗	瀬戸・美濃	18世紀後半~19世紀前半				2.3×1.7
	12	シロ051006-2-2-12	小皿	不明	近代	染付			3.5×3.6
	13	シロ051011-2-2-1	碗	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付 口縁部	第18図 7	図版59	4.3×6.2
	14	シロ051011-2-2-2	不明	瀬戸・美濃	近代	磁器 口縁部			2.6×3.5
	15	シロ051011-2-2-3	徳利	瀬戸・美濃	近代	染付			2.4×1.7
	16	シロ051011-2-2-4	碗	瀬戸・美濃	19世紀半ば	染付		図版59	2.3×4.8
	17	シロ051011-2-2-5	小碗	瀬戸・美濃	近代	染付			3.2×3.3
	18	シロ051011-2-2-6	不明	不明	不明	素焼土器			3.3×5.4
	19	シロ051011-2-2-7	碗	伊万里	18世紀末~19世紀前半	口縁部		図版59	3.6×3.6

調査区	番号	遺物番号	器種	産地等	時代	備考	実測図	写真図	概寸(cm)
2-2	20	シロ051011-2-28	盃	瀬戸・美濃	近代	口縁部～高台			2.8×1.6
	21	シロ051011-2-29	碗	瀬戸・美濃	近代	染付			3.1×5.8
	22	シロ051011-2-2-10	大皿	瀬戸・美濃	不明				4.6×2.5
	23	シロ051011-2-2-11	皿	瀬戸・美濃	近代	口縁部～高台 051011-2-2-11～12接合			3.1×6.0
	24	シロ051011-2-2-13	茶碗	瀬戸・美濃	近代				2.3×2.8
	25	シロ051011-2-2-14	皿	瀬戸・美濃	近代	染付 高台			1.6×2.8
	26	シロ051011-2-2-15	湯呑茶碗	瀬戸・美濃	19世紀前半	口縁部～高台	第18図 12	図版59	4.8×6.3
	27	シロ051011-2-2-16	小皿	伊万里	18世紀末～19世紀前半	V期 口縁部～高台	第19図 14	図版59	4.5×3.9
	28	シロ051011-2-2-17	碗	瀬戸・美濃	19世紀	染付		図版59	2.8×2.6
	29	シロ051011-2-2-18	皿	瀬戸・美濃	近代	染付			3.1×2.0
	30	シロ051011-2-2-19	筒形碗	伊万里	18世紀末～19世紀前半	V期 染付			3.6×5.8
	31	シロ051011-2-2-20	小皿	瀬戸・美濃	19世紀	染付 口縁部		図版59	1.6×4.8
	32	シロ051011-2-2-21	輪壳皿	瀬戸・美濃	18世紀末～19世紀前半				3.8×1.8
	33	シロ051011-2-2-22	鉢	瀬戸・美濃	近代	口縁部			3.4×5.2
	34	シロ051011-2-2-23	徳利	高遠	不明				5.1×5.5
	35	シロ051011-2-2-24	楠木鉢	瀬戸・美濃	18世紀末～19世紀前半	脚盤		図版59	4.8×3.9
	36	シロ051011-2-2-25	碗	伊万里	18世紀末～19世紀前半	V期 染付 五弁花	第19図 15	図版59	2.7×2.7
	37	シロ051011-2-2-26	短足小碗	瀬戸・美濃	18世紀末～19世紀前半	口縁部			3.2×3.0
	38	シロ051011-2-2-27	灰釉丸碗	瀬戸・美濃	18世紀末～19世紀前半				2.3×2.1
	39	シロ051011-2-2-28	灰釉丸皿	瀬戸・美濃	18世紀末～19世紀前半	口縁部			1.9×3.0
	40	シロ051011-2-2-29	徳利	瀬戸・美濃	19世紀	底部			2.0×4.0
	41	シロ051011-2-2-30	壺	不明	不明	051011-2-2-32と同じ			3.6×3.1
	42	シロ051011-2-2-31	不明	瀬戸・美濃	19世紀以降	染付			1.1×2.4
	43	シロ051011-2-2-32	壺	不明	不明	051011-2-2-30と同じ			3.3×2.3
	44	シロ051011-2-2-33	小碗	瀬戸・美濃	近代	上絵付			2.0×2.1
	45	シロ051011-2-2-34	鉢	瀬戸・美濃	19世紀以降	染付			2.6×1.8
	46	シロ051011-2-2-35	小皿	瀬戸・美濃	近代	口縁部			1.3×2.5
	47	シロ051011-2-2-36	小皿	不明	近代	染付			3.6×2.8
	48	シロ051011-2-2-37	小皿	不明	近代				2.5×4.1
	49	シロ051011-2-2-38	徳利	高遠	19世紀	口縁部			3.1×1.9
	50	シロ051011-2-2-39	碗	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付 051011-2-2-39-40接合	第19図 16	図版60	5.2×8.8
	51	シロ051011-2-2-41	鉢	瀬戸・美濃	18世紀末～19世紀前半	高台 051011-2-2-41-42接合		図版59	3.1×6.3
	52	シロ051011-2-2-43	不明	瀬戸・美濃	近代	染付 051011-2-2-43-44接合			1.7×2.8
	53	シロ051011-2-2-45	不明	瀬戸・美濃	19世紀以降	染付			1.7×1.0
	54	シロ051011-2-2-46	不明	瀬戸・美濃	19世紀以降	高台			2.6×0.6
	55	シロ051011-2-2-47	蓋付鉢	瀬戸・美濃	近代	染付			1.0×1.7
	56	シロ051011-2-2-48	盃	瀬戸・美濃	近代	上絵付			1.5×1.6
	57	シロ051011-2-2-49	灰釉丸碗	瀬戸・美濃	18世紀末～19世紀前半				1.0×3.4
	58	シロ051011-2-2-50	徳利	瀬戸・美濃	近代半				1.8×2.1

調査区	番号	遺物番号	器種	産地等	時代	備考	実測図	写真図	概寸(cm)
2-2	59	シロ051011-2-2-51	灰軸丸罎	瀬戸・美濃	18世紀末～19世紀前半	陶器			20×1.2
	60	シロ051011-2-2-52	電気絶縁体	不明	現代				35×1.4
	61	シロ051011-2-2-53	電気絶縁体	不明	現代				11.5×1.5
	62	シロ051011-2-2-54	火鉢	在地	19世紀(幕末)以降				26×3.7
	63	シロ051011-2-2-55	火鉢	在地	19世紀(幕末)以降				1.8×1.4
	64	シロ051011-2-2-56	徳利	瀬戸・美濃	近代以降	染付 銅版転写 051011-2-2-56-57 接合			5.2×4.5
	65	シロ051011-2-2-58	徳利	瀬戸・美濃	近代以降	染付 銅版転写 051011-2-2-56と同一固体か			2.9×3.6
	66	シロ051011-2-2-59	徳利	瀬戸・美濃	近代以降	染付 銅版転写 051011-2-2-56と同一固体か			3.0×4.1
	67	シロ051011-2-2-60	徳利	瀬戸・美濃	近代以降	染付 銅版転写 051011-2-2-56と同一固体か			3.0×2.2
	68	シロ051011-2-2-61	徳利	瀬戸・美濃	近代以降	染付 銅版転写 051011-2-2-56と同一固体か			2.5×1.3
	69	シロ051011-2-2-62	板ガラス	不明	現代	化粧瓶の蓋			
	70	シロ051014-2-2-1	徳利	在地か	不明		図版60		8.1×6.0
	71	シロ051014-2-2-2	徳利	在地	不明	焼締 底部平底	第18図 9	図版60	10.3×9.3
	72	シロ051024-2-2-1	湯呑茶碗	瀬戸・美濃	近代	上絵付 口縁部	第18図 8	図版60	4.2×5.8
	73	シロ051024-2-2-2	徳利	高遠	不明				3.4×2.0
	74	シロ051024-2-2-3	徳利	高遠	19世紀以降	底部平底			4.1×3.9
	75	シロ051024-2-2-4	小鍋	京焼系か	不明	上絵付 口縁部			2.2×2.8
	76	シロ051024-2-2-5	槽鉢	在地	19世紀前半	口縁部 051024-2-2-5-6接合	第19図 13	図版60	7.7×12.6
	77	シロ051025-2-2-1	鉢	伊万里か	18世紀末から19世紀前半	染付 低い高台	第18図 10	図版 60-61	11.0×14.8
	78	シロ051028-2-2-1	土管(桶)	高遠	19世紀前半	灰色素焼 すのこ痕、布目痕あり 051028-2-2-1、2接合	第24図 1	図版73	14.8×9.0 (19.0)
	79	シロ051028-2-2-3	土管(桶)	高遠	19世紀前半	灰色素焼 すのこ痕、布目痕あり 051028-2-2-3、4接合	第24図 2	図版74	14.7×9.0 (20.0)
	80	シロ051028-2-2-5	土管(桶)	高遠	19世紀前半	灰色素焼 すのこ痕、布目痕あり	第24図 3	図版75	4.5×9.0 (19.0)
	81	シロ051028-2-2-6	土管(桶)	高遠	19世紀前半	灰色素焼 すのこ痕、布目痕あり	第24図 4	図版76	14.5×8.0 (20.0)
2-3	1	シロ051007-2-3-1	灯明皿	瀬戸・美濃	18世紀末～19世紀前半	灰軸陶器 口縁部		図版62	2.4×4.6
	2	シロ051011-2-3-1	灰軸丸罎	瀬戸・美濃	18世紀末～19世紀前半	口縁部	第19図 17	図版62	3.2×3.4
	3	シロ051011-2-3-2	湯呑茶碗	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付			3.9×2.8
	4	シロ051011-2-3-3	型打皿	瀬戸・美濃	近代				4.0×3.2
	5	シロ051011-2-3-4	湯呑茶碗	伊万里	18世紀末～19世紀	V期 染付		図版62	2.4×4.1
	6	シロ051011-2-3-5	皿	瀬戸・美濃	近代	高台			1.3×5.2
	7	シロ051011-2-3-6	盃	瀬戸・美濃	近代	高台	第19図 19	図版62	1.8×4.3
	8	シロ051011-2-3-7	盃	瀬戸・美濃	近代	上絵付			1.6×1.7
	9	シロ051011-2-3-8	不明	不明	近代	磁器			1.9×2.0
	10	シロ051011-2-3-9	不明	瀬戸・美濃	近代以降	染付 銅版転写			1.6×2.4
	11	シロ051011-2-3-10	槽鉢	瀬戸・美濃	17世紀	口縁部			2.7×3.3
	12	シロ051011-2-3-11	槽鉢	在地	19世紀	口縁部			3.3×2.7
	13	シロ051011-2-3-12	槽鉢	瀬戸・美濃	19世紀	口縁部			2.6×6.6
	14	シロ051011-2-3-13	徳利	瀬戸・美濃	18世紀末～19世紀前半				5.9×4.6
	15	シロ051011-2-3-14	甕	在地	不明				4.7×4.9
	16	シロ051014-2-3-1	灰軸丸罎	瀬戸・美濃か	18世紀末～19世紀前半		第19図 18	図版62	3.8×5.6

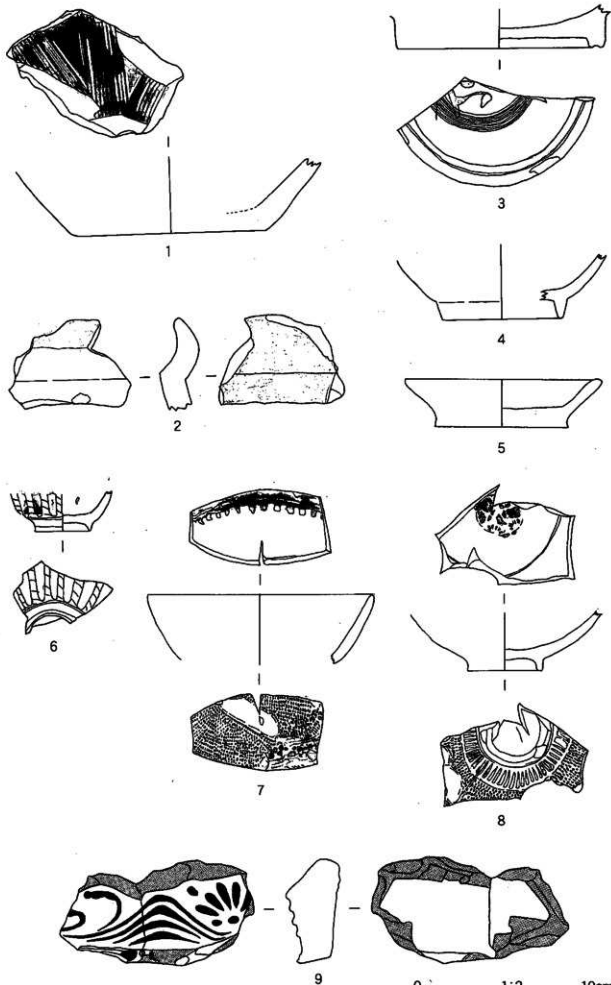
調査区	番号	遺物番号	器種	産地等	時代	備考	実測図	写真図	概寸(cm)
2-4	1	シロ051011-2-4-1	甕か	高遠	19世紀以降	陶器			5.2×5.4
	2	シロ051011-2-4-2	鍔手茶碗	瀬戸・美濃	18世紀後半～19世紀前半	陶器 口縁部～高台	第19図 20	図版 63-64	5.3×4.7
	3	シロ051011-2-4-3	仏花瓶	瀬戸・美濃	18世紀末～19世紀前半	陶器			4.2×3.2
	4	シロ051011-2-4-4	漆鉢	在地か	近代				2.9×3.9
	5	シロ051011-2-4-5	徳利	瀬戸・美濃	18世紀末～19世紀前半				3.1×3.1
	6	シロ051011-2-4-6	皿	瀬戸・美濃	近代	染付			3.8×2.4
	7	シロ051011-2-4-7	蓋	伊万里	18世紀末～19世紀前半	V期 染付	第19図 22	図版63	1.1×6.8
	8	シロ051011-2-4-8	徳利	瀬戸・美濃	19世紀	染付			3.7×3.4
	9	シロ051011-2-4-10	灰釉丸皿	瀬戸・美濃	16世紀	大泉周 高台		図版63	3.0×1.7
	10	シロ051011-2-4-11	灰釉丸碗	瀬戸・美濃	18世紀末～19世紀前半	口縁部			1.8×3.6
	11	シロ051011-2-4-12	瓦質土器	在地	18世紀以降	火鉢			2.0×3.6
	12	シロ051011-2-4-13	墨打皿	瀬戸・美濃	近代	青磁 口縁部			3.1×2.7
	13	シロ051011-2-4-14	灯明皿	瀬戸・美濃	18世紀末～19世紀前半	陶器	第19図 21	図版63	1.3×2.8
	14	シロ051011-2-4-15	灰釉徳利	瀬戸・美濃	18世紀末～19世紀前半	陶器			2.0×3.3
	15	シロ051011-2-4-16	小碗	伊万里か	18世紀末～19世紀前半	染付			2.7×2.4
	16	シロ051011-2-4-17	蓋	瀬戸・美濃	近代	白磁 高台			2.2×2.6
	17	シロ051011-2-4-18	徳利	瀬戸・美濃	19世紀以降	陶器 高台			2.1×1.4
	18	シロ051011-2-4-19	小碗	瀬戸・美濃	近代	上絵付			1.9×2.1
	19	シロ051011-2-4-20	碗	高遠	19世紀以降				1.4×2.0
	20	シロ051011-2-4-21	小碗瓖反	瀬戸・美濃	18世紀末～19世紀前半	陶器 口縁部			1.5×2.3
	21	シロ051011-2-4-22	不明	不明	近代	陶器			1.3×2.3
	22	シロ051011-2-4-23	徳利	瀬戸・美濃	18世紀末～19世紀前半	陶器			1.9×1.2
	23	シロ051011-2-4-24	碗か	瀬戸・美濃	近代	染付			1.7×1.8
	24	シロ051011-2-4-25	徳利	瀬戸・美濃	近代	染付			1.3×1.7
	25	シロ051011-2-4-26	碗	瀬戸・美濃	19世紀初頭	染付 陶器			1.3×1.2
	26	シロ051011-2-4-27	不明	不明	近代	陶器			1.1×1.3
	27	シロ051011-2-4-28	火鉢片	在地	不明	土器			1.1×1.6
	28	シロ051011-2-4-29	不明	瀬戸・美濃	近代	染付			1.0×1.7
	29	シロ051011-2-4-30	土管	高遠	近代	黒色			2.8×1.8
	30	シロ051011-2-4-31	土管	高遠	近代	黒色			2.3×1.8
	31	シロ051011-2-4-32	徳利	瀬戸・美濃	近代	染付			2.8×2.1
	32	シロ051011-2-4-33	蓋	瀬戸・美濃	近代	染付			2.2×1.3
	33	シロ051011-2-4-34	蓋	不明	近代	磁器			1.0×1.5
	34	シロ051011-2-4-35	不明	不明	近代	磁器			1.4×1.3
	35	シロ051011-2-4-36	不明	不明	近代	磁器			0.7×1.2
	36	シロ051011-2-4-37	内耳土器	在地	14～16世紀				2.9×4.4
	37	シロ051011-2-4-38	スレート瓦	不明	現代				3.6×6.5
	38	シロ051011-2-4-39	モルタル	不明	現代				1.8×2.9
	39	シロ051011-2-4-40	モルタル	不明	現代				1.7×2.5

調査区	番号	遺物番号	器種	産地等	時代	備考	実測図	写真図	尺寸(cm)
2-4	40	シロ051011-2-4-41	モルタル	不明	現代				1.8×1.2
	41	シロ051011-2-4-42	モルタル	不明	現代				1.4×1.7
	42	シロ051011-2-4-43	絶縁磚子	不明	現代	電線付き			3.8×1.5
	43	シロ051011-2-4-44	絶縁磚子	不明	現代	051011-2-4-45と接合			6.5×1.5
	44	シロ051011-2-4-46	絶縁磚子	不明	現代				4.8×1.4
	45	シロ051011-2-4-47	丸釘	不明	近代以降				0.9×10.0
	46	シロ051011-2-4-48	丸釘	不明	近代以降				1.0×8.4
	47	シロ051011-2-4-49	丸釘	不明	近代以降				0.9×8.7
	48	シロ051011-2-4-50	丸釘	不明	近代以降				1.0×8.7
	49	シロ051011-2-4-51	丸釘	不明	近代以降				1.2×8.0
	50	シロ051011-2-4-52	丸釘	不明	近代以降				1.7×6.3
	51	シロ051011-2-4-53	丸釘	不明	近代以降				1.1×6.0
	52	シロ051011-2-4-54	鉄片	不明	近代以降				1.4×4.8
	53	シロ051011-2-4-55	鉄片	不明	近代以降				1.0×3.2
	54	シロ051011-2-4-56	丸釘	不明	近代以降				1.4×4.2
	55	シロ051011-2-4-57	鉄片	不明	近代以降				1.3×2.7
	56	シロ051011-2-4-58	丸釘	不明	近代以降				0.5×3.5
	57	シロ051011-2-4-59	ガラス	不明	近代以降				
	58	シロ051014-2-4-1	徳利	不明	19世紀				4.1×3.8
	59	シロ051014-2-4-2	内耳土器	在地	14～16世紀	内側にすず付替			3.1×3.6
	60	シロ051014-2-4-3	小碗	瀬戸・美濃	近代	染付			1.5×1.6
	61	シロ051019-2-4-1	徳利	瀬戸・美濃	近代	染付			2.0×1.3
	62	シロ051028-2-4-1	土管	高遠	不明	赤茶色 051028-2-4-1・2接合			9.5×50.0 (120)
	63	シロ051028-2-4-3	土管	高遠	不明	赤茶色 051028-2-4-3～6接合			9.5×49.5 (125)
	64	シロ051028-2-4-7	土管	高遠	不明	赤茶色			9.0×48.0 (125)
65	シロ051028-2-4-8	土管	高遠	不明	赤茶色			9.5×49.0 (130)	
2-5	1	シロ051006-2-5-1	徳利	瀬戸・美濃	近代	染付		図版66	2.9×3.2
	2	シロ051007-2-5-1	蓋	不明	不明	051007-2-5-1・2接合	第196図 24	図版66	1.8×8.4
	3	シロ051007-2-5-3	徳利	瀬戸・美濃	近代	高台	第196図 23	図版66	3.3×3.6
	4	シロ051007-2-5-4	皿	瀬戸・美濃	19世紀後半	染付 銅版転写		図版66	1.8×1.7
	5	シロ051011-2-5-1	瓦	不明	不明				8.8×8.0
	6	シロ051011-2-5-3	土管片	高遠	近代	黒色 051011-2-5-3～6-8 2-5内出土土管一連と接合			
	7	シロ051011-2-5-7	土管片	高遠	近代	黒色 051011-2-5-9・10, 051028-2-5-10と接合			9.3×49.0 (130)
	8	シロ051011-2-5-11	片口	高遠	近代	051011-2-5-16と接合			4.1×3.8
	9	シロ051011-2-5-12	丸瓦	不明	不明				4.1×3.7
	10	シロ051011-2-5-13	七輪の一部	不明	不明				3.7×4.6
	11	シロ051011-2-5-14	搦鉢	瀬戸・美濃	江戸時代				3.6×4.2
	12	シロ051011-2-5-15	搦鉢	瀬戸・美濃	江戸時代				2.8×3.7
	13	シロ051011-2-5-17	糸目土瓶	瀬戸・美濃	不明	口縁部			3.6×3.4

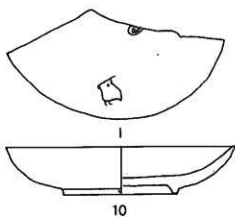
調査区	番号	遺物番号	器種	産地等	時代	備考	実測図	写真図面	概寸(cm)
2-5	14	シロ051011-2-5-18	鉢	瀬戸・美濃	近代	上絵付 051011-2-5-18-21接合	第20図 36	図版66	6.8×5.0
	15	シロ051011-2-5-19	徳利	瀬戸・美濃	19世紀(幕末)	染付 高台	第20図 37	図版66	1.9×4.5
	16	シロ051011-2-5-20	徳利	瀬戸・美濃	近代	051011-2-5-20~24-28接合			7.0×5.3
	17	シロ051011-2-5-25	鉢か腰折碗	瀬戸・美濃	19世紀	染付 高台			2.8×4.7
	18	シロ051011-2-5-26	盃か小碗	瀬戸・美濃	19世紀(幕末)	高台	第21図 38	図版66	2.7×4.7
	19	シロ051011-2-5-27	花瓶か徳利	瀬戸・美濃	近代				4.4×3.3
	20	シロ051011-2-5-29	皿	瀬戸・美濃	近代	染付 高台			2.5×5.8
	21	シロ051011-2-5-30	大皿	瀬戸・美濃	近代	染付 銅版転写	第21図 39	図版66	4.5×4.8
	22	シロ051011-2-5-31	盃	瀬戸・美濃	近代	染付 銅版転写			2.9×2.6
	23	シロ051011-2-5-32	鉢か皿	瀬戸・美濃	近代	染付			1.8×4.3
	24	シロ051011-2-5-33	盃	瀬戸・美濃	近代				3.8×3.1
	25	シロ051011-2-5-34	皿	不明	不明	陶器			3.7×2.0
	26	シロ051011-2-5-35	皿	瀬戸・美濃	近代				2.1×4.6
	27	シロ051011-2-5-36	徳利	瀬戸・美濃	近代	染付 高台			2.5×4.0
	28	シロ051011-2-5-37	落香茶碗	瀬戸・美濃	不明	上絵付			3.2×1.4
	29	シロ051011-2-5-38	化粧瓶	不明	近代以降	ガラス			3.9×3.8
	30	シロ051011-2-5-39	徳利	瀬戸・美濃	近代				3.2×3.0
	31	シロ051011-2-5-40	徳利	瀬戸・美濃	近代	051011-2-5-42と接合 051011-2-5-39と同個体か			2.6×5.8
	32	シロ051011-2-5-41	徳利	瀬戸・美濃	近代	051011-2-5-39と同個体か			4.3×3.0
	33	シロ051011-2-5-43	釘	不明	近代以降				2.0×7.2
	34	シロ051011-2-5-44	貨幣	不明	江戸時代	寛永通宝 裏面に「文」とある	第21図 40	図版67	2.5×2.5
	35	シロ051014-2-5-1	土管片	高遠	近代				4.4×6.6
	36	シロ051014-2-5-2	土管片	高遠	近代				7.5×4.2
	37	シロ051014-2-5-3	土管片	高遠	近代				4.6×5.3
	38	シロ051014-2-5-4	土管片	高遠	近代				3.4×3.5
	39	シロ051014-2-5-5	土管片	高遠	近代				2.8×3.0
	40	シロ051014-2-5-6	土管片	高遠	近代				1.9×1.8
	41	シロ051014-2-5-7	播鉢	瀬戸・美濃	17世紀後半	口縁部			2.4×3.6
	42	シロ051014-2-5-8	播鉢	瀬戸・美濃	江戸時代				2.6×3.9
	43	シロ051014-2-5-9	灰輪丸碗	瀬戸・美濃	18世紀末~19世紀前半				3.4×3.1
	44	シロ051014-2-5-10	平碗	瀬戸	15世紀後半	古瀬戸後、期 口縁部		図版66	2.6×2.8
	45	シロ051014-2-5-11	小皿	瀬戸・美濃	近代	染付			2.6×5.6
	46	シロ051014-2-5-12	茶碗	瀬戸・美濃	近代	染付	第20図 35	図版66	3.1×3.6
	47	シロ051014-2-5-13	盃	瀬戸・美濃	近代	染付 口縁部	第20図 33	図版66	2.9×2.4
	48	シロ051014-2-5-14	徳利	瀬戸・美濃	近代	高台			2.3×4.0
	49	シロ051014-2-5-15	徳利	瀬戸・美濃	近代				3.3×2.9
	50	シロ051014-2-5-16	徳利	瀬戸・美濃	近代				4.2×3.1
	51	シロ051014-2-5-17	盃	瀬戸・美濃	近代	高台			3.5×1.8
	52	シロ051014-2-5-18	徳利か花瓶	瀬戸・美濃	近代	染付			1.4×1.6

調査区	番号	遺物番号	器種	産地等	時代	備考	実測図	写真図	尺寸(cm)
2-5	53	シロ051014-2-5-19	徳利	瀬戸・美濃	近代				26×1.0
	54	シロ051014-2-5-20	湯呑茶碗	不明	近代				24×4.9
	55	シロ051014-2-5-21	徳利	在地	幕末～明治時代以降				4.1×4.2
	56	シロ051014-2-5-22	徳利	在地	幕末～明治時代以降				3.1×1.4
	57	シロ051014-2-5-23	徳利	在地	幕末～明治時代以降	051014-2-5-24と接合			1.8×5.5
	58	シロ051014-2-5-25	瓦	不明	不明				3.5×6.0
	59	シロ051014-2-5-26	鉄片	不明	不明				1.2×1.3
	60	シロ051014-2-5-27	貨幣	不明	江戸時代	寛永通宝	第21図 41	図版68	2.3×2.3
	61	シロ051014-2-5-28	ガラス瓶	不明	近代以降				
	62	シロ051019-2-5-1	瓦	不明	不明				4.4×7.7
	63	シロ051019-2-5-2	土管	高遠	不明				4.4×3.2
	64	シロ051019-2-5-3	鐺鉢	瀬戸・美濃	18世紀後半	口縁部			3.1×4.5
	65	シロ051019-2-5-4	茶碗	瀬戸・美濃	近代	染付	第20図 30	図版65	5.6×9.6
	66	シロ051019-2-5-5	蓋	瀬戸・美濃	近代	染付	第20図 34	図版65	2.1×7.0
	67	シロ051019-2-5-6	鉢皿	瀬戸・美濃	近代	染付			2.7×2.6
	68	シロ051019-2-5-7	盃	瀬戸・美濃	近代				2.6×3.2
	69	シロ051019-2-5-8	碗	伊万里	18世紀後半～19世紀前半	V期 染付 口縁部			2.8×2.8
	70	シロ051019-2-5-9	皿	瀬戸・美濃	18世紀後半				3.2×2.0
	71	シロ051019-2-5-10	土瓶	瀬戸・美濃	18世紀末～19世紀前半				3.0×5.7
	72	シロ051019-2-5-11	徳利	瀬戸・美濃	近代	051019-2-5-12・13と同一器体か			4.3×2.6
	73	シロ051019-2-5-12	徳利	瀬戸・美濃	近代	051019-2-5-11・13と同一器体か			3.6×1.5
	74	シロ051019-2-5-13	徳利	瀬戸・美濃	近代	051019-2-5-11・12と同一器体か			3.6×2.0
	75	シロ051019-2-5-14	不明	瀬戸・美濃	近代				1.0×2.0
	76	シロ051019-2-5-15	皿か	瀬戸・美濃	19世紀前半				1.4×1.2
	77	シロ051019-2-5-16	徳利	不明	近代				2.8×2.7
	78	シロ051019-2-5-17	土瓶	瀬戸・美濃	近代				3.0×1.8
	79	シロ051019-2-5-18	鉄片	不明	近代以降				1.6×6.8
	80	シロ051019-2-5-19	丸釘	不明	近代以降				1.0×5.2
	81	シロ051019-2-5-20	ガラス片	不明	近代以降				4.0×4.5
	82	シロ051024-2-5-1	徳利	在地	19世紀(幕末)			図版66	10.7×7.8
	83	シロ051024-2-5-2	皿	瀬戸・美濃	19世紀(明治時代以降)	上絵付 高台	第19図 25	図版65	6.1×6.3
	84	シロ051024-2-5-3	碗	伊万里	18世紀後半～19世紀前半	V期 染付 高台	第20図 27	図版65	5.2×3.1
	85	シロ051024-2-5-4	盃	瀬戸・美濃	近代	染付 高台	第20図 28	図版65	2.6×5.6
	86	シロ051024-2-5-5	碗	伊万里	18世紀後半～19世紀前半	V期 染付 口縁部	第20図 32	図版65	2.8×4.2
	87	シロ051024-2-5-6	不明	不明	不明	磁器		図版66	3.4×2.4
	88	シロ051024-2-5-7	砥石	不明	不明			図版66	3.7×2.8
	89	シロ051025-2-5-1	瓦片	不明	近代以降				4.9×7.4
	90	シロ051025-2-5-2	盃	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付 051025-2-5-2～4接合	第20図 26	図版65	4.7×7.0
	91	シロ051025-2-5-5	梨打皿	瀬戸・美濃	近代以降		第20図 29	図版65	2.4×6.5

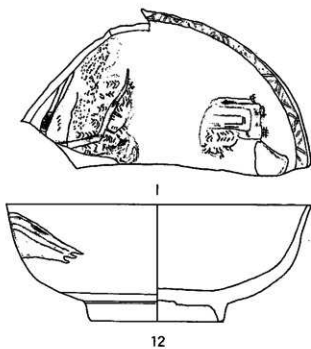
調査区	番号	遺物番号	器種	産地等	時代	備考	実測図	写真図	概寸(cm)
2-5	92	シロ051025-2-5-6	蓋	瀬戸・美濃	19世紀(明治以降)	染付	第20図 31	図版65	3.6×5.2
	93	シロ051025-2-5-7	花瓶類	伊万里	不明	染付 口縁部			24×5.5
	94	シロ051025-2-5-8	碗	不明	18世紀末以降	口縁部			2.8×3.6
	95	シロ051028-2-5-1	土管	高遠	近代	黒色			7.0×2.5
	96	シロ051028-2-5-2	土管	高遠	近代	黒色			14.0×4.5
	97	シロ051028-2-5-3	土管	高遠	近代	黒色 051028-2-5-3~6接合			9.0×12.5
	98	シロ051028-2-5-7	土管	高遠	近代	黒色 051028-2-5-7~8接合			9.5×49.0 (13.5)
	99	シロ051028-2-5-9	土管	高遠	近代	黒色			9.5×49.0 (13.0)
	100	シロ051028-2-5-11	土管	高遠	近代	黒色光沢あり 05101-2-5-24, 051028-2-5-11-15~16-18-19-21~24-26-30~49接合			10.0×49.0 (12.0)
	101	シロ051028-2-5-12	土管	高遠	近代	黒色光沢あり 05101-2-5-2, 051028-2-5-12-17-25-29-30~70接合			10.0×49.0 (13.0)
	102	シロ051028-2-5-13	土管	高遠	近代	黒色光沢あり 051028-2-5-13-14-27-73~94接合			9.7×49.0 (12.5)
	103	シロ051028-2-5-20	土管	高遠	近代	黒色			
	104	シロ051028-2-5-28	土管	高遠	近代	黒色			4.9×2.4
	3-1	1	シロ051019-3-1-1	スレート瓦	不明	現代			
2		シロ051020-3-1-1	碗	不明	不明				4.6×3.2
3		シロ051020-3-1-2	不明	不明	不明				2.1×1.7
4		シロ051020-3-1-3	不明	不明	不明				1.0×1.5
5		シロ051020-3-1-4	不明	不明	不明				1.8×1.5
6		シロ051020-3-1-5	不明	不明	不明				1.3×2.0
7		シロ051020-3-1-6	蓋	不明	不明				1.2×2.1
8		シロ051020-3-1-7	蓋	不明	不明	染付磁器			1.1×1.7
9		シロ051020-3-1-8	蓋	不明	不明	磁器			1.2×0.9
10		シロ051020-3-1-9	平瓦片	不明	不明				2.8×3.2
11		シロ051020-3-1-10	鏡片	不明	不明				1.8×9.0
12		シロ051020-3-1-11	ガラス片	不明	近代以降				
3-2	1	シロ051031-3-2-1	蓋	瀬戸・美濃	近代	染付	第22図 1	図版69	3.0×5.6
	2	シロ051031-3-2-2	皿	瀬戸・美濃	近代	染付	第22図 3	図版69	5.1×10.4
	3	シロ051031-3-2-3	蓋	瀬戸・美濃	近代	上絵付磁器	第22図 2	図版69	5.0×5.5
	4	シロ051031-3-2-4	碗	瀬戸・美濃	19世紀	染付			1.6×1.1
	5	シロ051031-3-2-5	蓋	瀬戸・美濃	近代	染付 口縁部			0.8×1.5
	6	シロ051031-3-2-6	蓋	瀬戸・美濃	大正時代				1.3×1.5
	7	シロ051031-3-2-8	板ガラス	不明	近代以降				5.0×10.0
4-1	1	シロ051019-4-1-1	ガラス片	不明	近代以降	一升瓶			
	2	シロ051020-4-1-1	壺打鉢	瀬戸・美濃	近代				4.0×6.0
	3	シロ051020-4-1-2	徳利	瀬戸・美濃	近代	染付			9.0×5.2
	4	シロ051020-4-1-3	片口鉢	高遠	19世紀以降	口縁部 051020-4-1-3-4接合	第22図 1	図版70	4.6×7.5
	5	シロ051020-4-1-5	土瓶?	瀬戸・美濃	18世紀末~19世紀前半	胴部			3.7×2.5
	6	シロ051020-4-1-6	土器	不明	縄文晩期	条痕文土器		図版70	3.6×4.9
	7	シロ051020-4-1-7	瓦	不明	不明				7.3×6.1



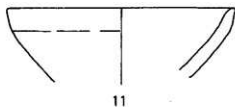
第14図 第1トレンチ出土遺物1



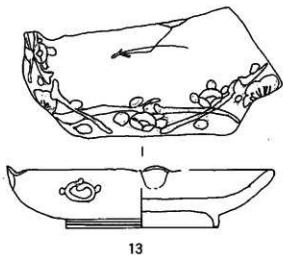
10



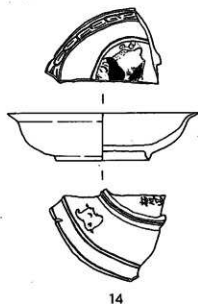
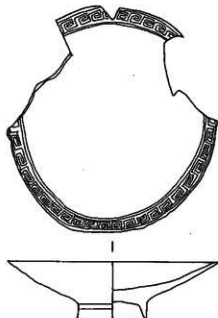
12



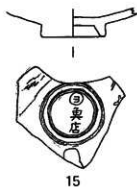
11



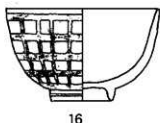
13



14



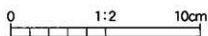
15



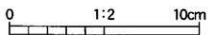
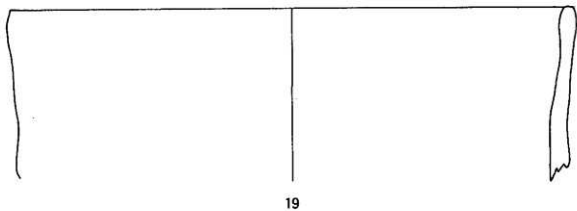
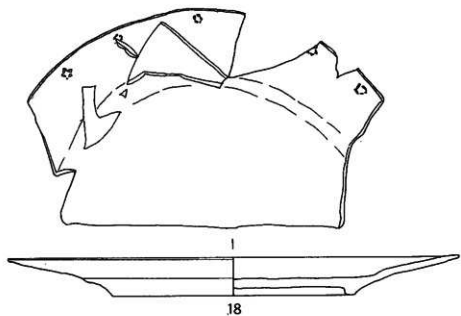
16



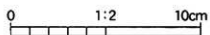
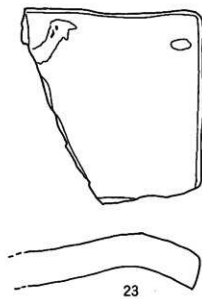
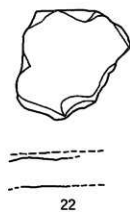
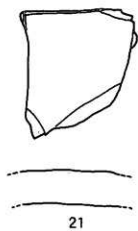
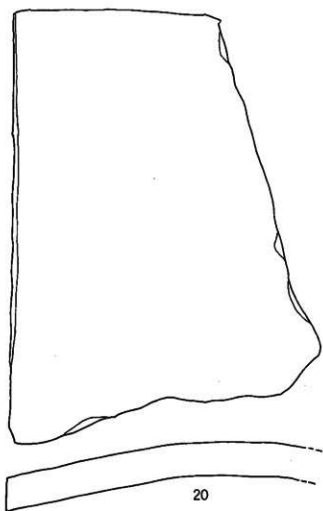
17



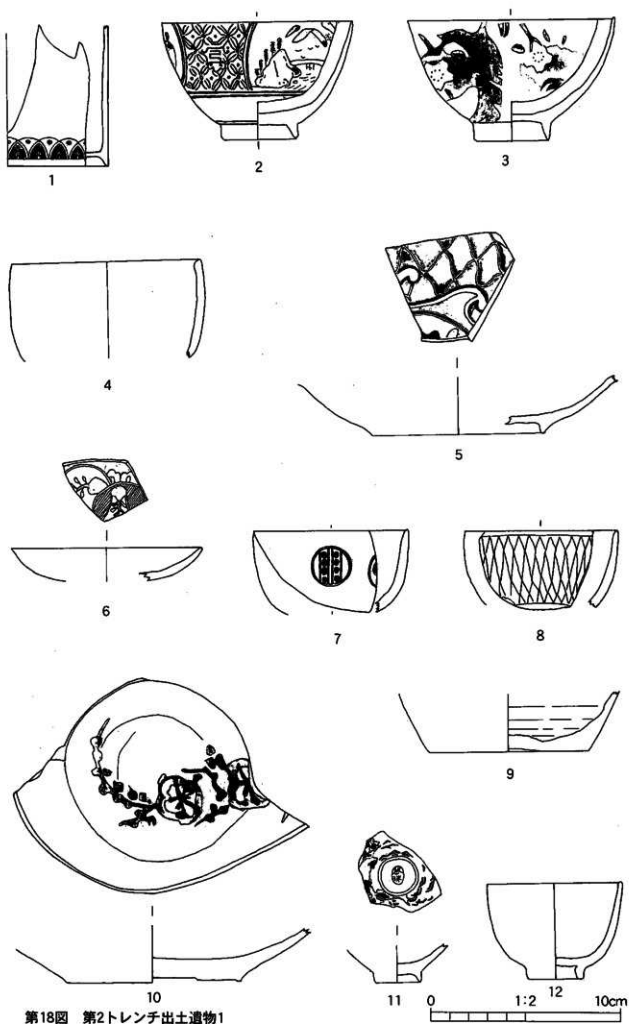
第15図 第1トレンチ出土遺物2



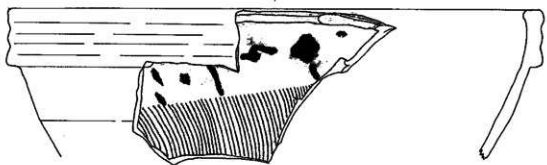
第16図 第1トレンチ出土遺物3



第17図 第1トレンチ出土遺物4



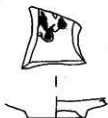
第18図 第2トレンチ出土遺物1



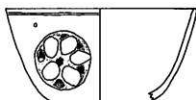
13



14



15



16



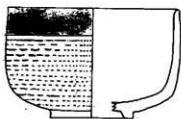
17



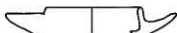
18



19



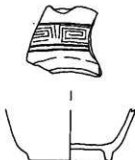
20



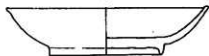
21



22



23



24



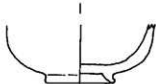
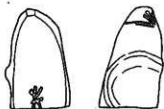
25

第19図 第2トレンチ出土遺物2

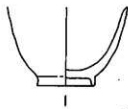
0 1:2 10cm



26



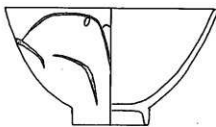
27



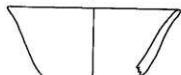
28



29



30



31



32



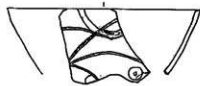
33



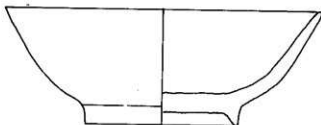
34



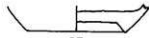
34



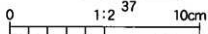
35



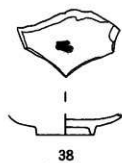
36



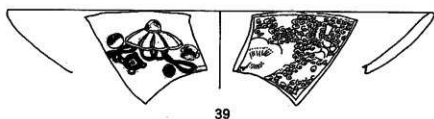
37



第20図 第2トレンチ出土遺物3



38



39



40

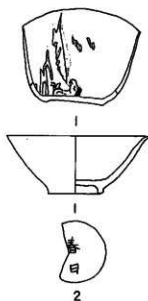


41

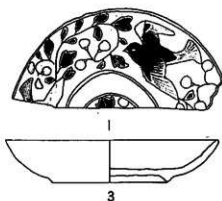
第21図 第2トレンチ出土遺物4 (40・41は1:1)



1

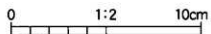


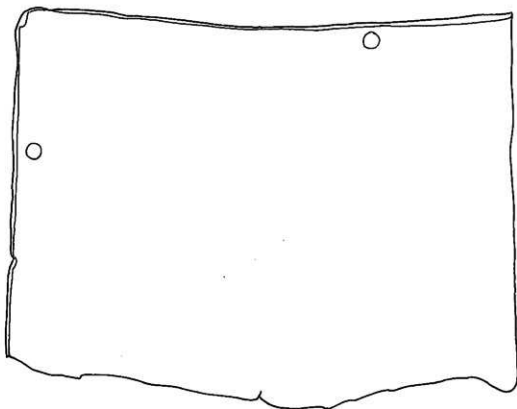
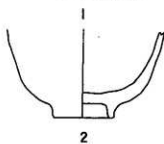
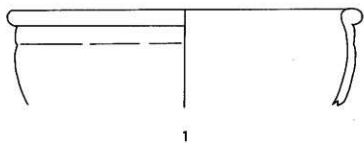
2



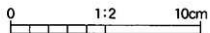
3

第22図 第3トレンチ出土遺物



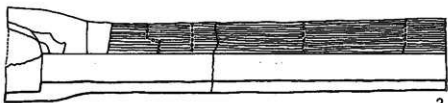


第23図 第4トレンチ出土遺物





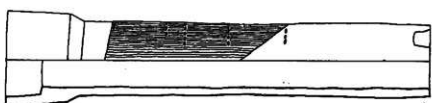
1



2



3



4



参考1 高遠町立歴史博物館 収蔵資料



参考2 高遠町立歴史博物館 収蔵資料

0 1:8 20cm

第24図 第2トレンチ出土土管(種)



1 第1トレンチ調査前



2 第1トレンチ調査前



3 1-1区礎石、水道管埋設跡の状況(北から)



4 1-2区電気ケーブル埋設の状況



5 1-3区水道管埋設の状況



6 1-1区北壁土層断面



7 1-2区北壁土層断面



8 1-0~1-2区礎石、水道管理設跡



9 1-0~1-2区礎石の状況(西から)



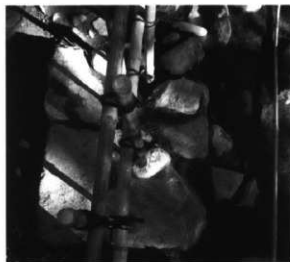
10 水道管、桜の根の状況(東から)



11 1-5区水道管、桜の根の状況(北から)



12 第1トレンチ全景(東から)



13 1-6区石垣と裏込石の様子



14 1-6区石垣の状況



15 1-6区石垣の遠景(北から)



16 第2トレンチ調査前(北から)



17 第2トレンチ調査前(南から)



18 2-1区桜の根の状況(西から)



19 2-1区桜の根の状況 (西から)



20 2-2区桜の根、VP管の状況 (東から)



21 2-2区遺物出土状況 (東から)



22 2-3区桜の根の状況 (西から)



23 2-4区集石の状況 (西から)



24 2-4区土管、桜の根の状況 (西から)



25 2-5区土管、電気ケーブルの状況（西から）



26 2-5区石列と水道管の状況



27 2-5区東壁土層断面と桜の根、水道管の状況



28 第3-4トレンチ調査前（西から）



29 第3-4トレンチ調査前（東から）



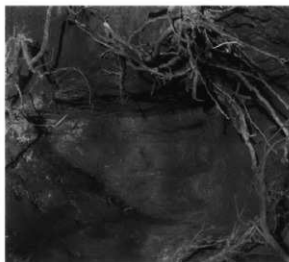
30 第3トレンチの状況（南から）



31 3-1区桜の根、電気ケーブルの状況



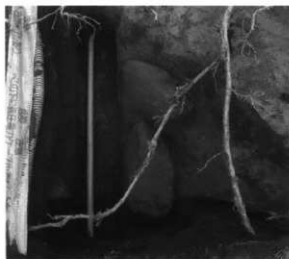
32 3-1区バックホーで掘った痕の状況



33 3-1区バックホーで掘った痕の状況



34 3-2区桜の根の状況 (西から)



35 3-2区礎石、電気ケーブル、水道管の状況



36 第4トレンチの状況 (北から)



37 4-1区東壁土層断面と桜の根の状況



38 4-2区桜の根の状況(西から)



39 第4トレンチ桜の根とバックホーによる攪乱の状況(北から)



40 ダガー実演の様子



41 調査開始前 安全祈願の様子



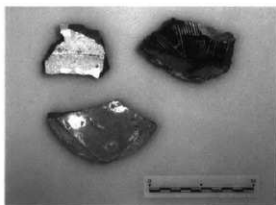
42 第1トレンチ埋め戻しの様子



43 第3トレンチ埋め戻しの様子



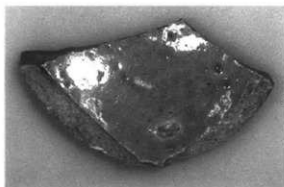
44 南曲輪埋め戻しの様子



45 1-0区出土遺物



46 1-1区出土遺物1



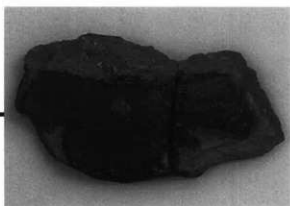
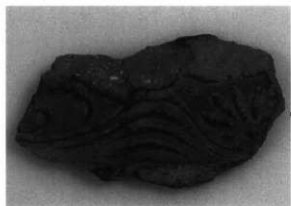
47 1-0区出土鉢



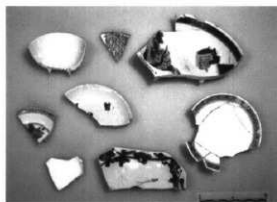
48 1-1区出土遺物2



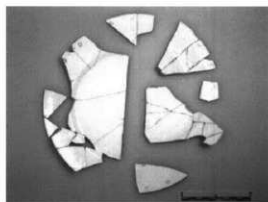
49 1-2区出土遺物



50 1-2区出土 軒平瓦



51 1-3区出土遺物1



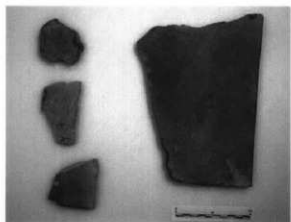
52 1-3区出土遺物2



53 1-3区出土 内耳土器



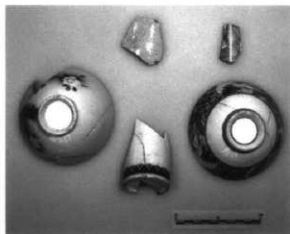
54 1-3区出土 天目茶碗



55 1-5区出土遺物



56 1-6区出土遺物



57 2-1区出土遺物



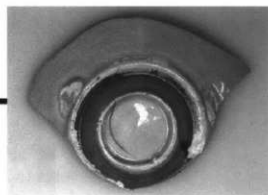
58 2-1区出土遺物 正面



59 2-2区出土遺物1



60 2-2区出土遺物2



61 2-2区出土鉢



62 2-3区出土遺物



63 2-4区出土遺物



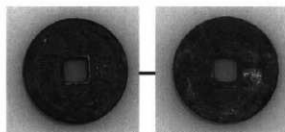
64 2-4区出土 鍍手茶碗



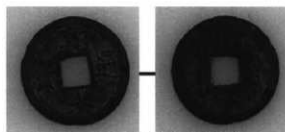
65 2-5区出土遺物1



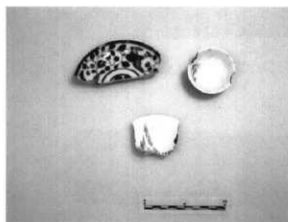
66 2-5区出土遺物2



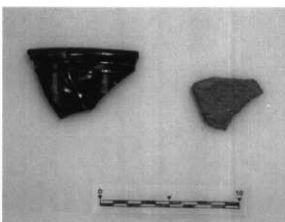
67 2-5区出土銭貨 寛永通宝



68 2-5区出土銭貨 寛永通宝



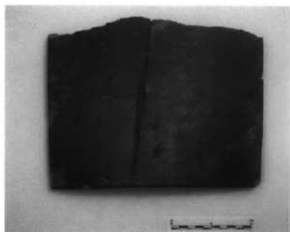
69 3-2区出土遺物



70 4-1区出土遺物



71 4-2区出土遺物1



72 4-2区出土遺物2



73 2-2区出土土管(樋)シ口051028-2-2-1



74 2-2区出土土管(樋)シ口051028-2-2-3



75 2-2区出土土管(樋)シ口051028-2-2-5



76 2-2区出土土管(樋)シ口051028-2-2-6



77 高遠町立歴史博物館収蔵土管1



78 高遠町立歴史博物館収蔵土管2



79 2-2区出土土管 ソケット部断面



80 文化11年銘入土管 製作痕

あ と が き

平成17年度に二ノ丸及び南曲輪において実施した発掘調査は「史跡高遠城跡整備実施計画」に基づいて、江戸時代に遡る建物址や枡形等の遺構確認を目的とした調査であります。また、近年枯損が問題となっている城跡内の県指定天然記念物高遠コヒガンザクラ樹林の保護対策を検討するため、遺構と桜の根の位置関係や根が遺構に及ぼす影響を確認することも合わせて行いました。

二ノ丸の虎口周辺に設けたトレンチからは、二ノ丸枡形の石垣あるいは土塁・塀の基礎となる石垣の根石の一部が見つかり、今まで詳細が明らかではなかった枡形的一端が見えてきました。また、城内に水を引くための土管(土樋)が見つかるなど、限られた調査区内ではありましたが貴重な結果が得られたと思います。桜の根の状況についても、保護対策を検討するための資料が得られましたので、その方策について、十分な検討を重ねて史跡の保護に期したいと思います。

今回の調査につきましては、文化庁はじめ県教育委員会など関係機関各位、史跡高遠城跡整備実施計画策定委員の諸先生方のご理解とご協力の賜物であると感謝申し上げますとともに、この報告書の刊行にあたりまして、各関係機関、長野県埋蔵文化財センター調査員の先生方のご協力によりまとめることができましたことに心よりお礼申し上げます。

なお、調査団長をお引き受けいただきました丸山敏一郎先生には大変お忙しいお身体をも省みず陣頭指揮をとっていただきましたことに心よりお礼申し上げます。また、調査期間中、積極的に作業に参加していただきました発掘作業員の皆さんに心から感謝申し上げます。

高遠町教育委員会
教育次長 伊藤 順一

報告書抄録

ふりがな		しせきたかとおじょうせきにのまる・みなみぐるわ						
書名		史跡高遠城跡二ノ丸・南曲輪						
副書名		史跡高遠城跡試掘(遺構確認)調査						
巻次								
シリーズ名		埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ番号								
編著者名		丸山 敏一郎						
編集機関		高遠町教育委員会						
所在地		〒396-0292 長野県上伊那郡高遠町大字西高遠1806番地 TEL.0265(94)2557						
発行年月日		西暦2006年3月						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 〃 〃	東緯 〃 〃	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
しせき跡 たかとおじょうせき 高遠城跡	ながのけん 長野県 かみなく 上伊那郡 たかとおじょうせき 高遠町大字 ひがしたかとおあざ 東高遠字 じょうせき 城	20381	7270	35° 49' 50.6"	138° 4' 0.1"	平成17年 10月 ～ 平成17年 12月	147m ²	史跡整備に伴う遺構内容確認調査 長野県天然記念物高遠のコヒガンザクラ樹林の保護・育成を目的とした根の調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
史跡 高遠城跡	城館跡	中世 近世		橋形石垣 建物址		土器及び陶磁器 (中近世) 給排水土管(近世)		

史跡高遠城跡試掘(遺構確認)調査

史跡 高遠城跡二ノ丸・南曲輪

埋蔵文化財発掘調査報告書

平成18年3月

編集・発行 高遠町教育委員会
印刷・製本 アライヴ デザインラボ
長野県上伊那郡高遠町大字東高遠2116

